

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)		
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事				
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事			
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 選定した記事内容			
104	14.24	44.53	破砕帯(主せん前面44.31m)	44.24	44.53	破砕帯(最新活動面44.31m) 最も直線の粘土状部	44.24	44.53	●44.24～44.83m:破砕部 44.24～44.31m:粘土質礫状部(Hb) 上端、幅1m/赤色軟質粘土で5～13°で湾曲して、下端35°で直線的に連続。径2～3mm石英粒。径5～18mm(最大25mm)花崗岩片を30%程度含む。灰黄色を呈する。幅45～85mm。 44.31m:粘土状部(Hc-1) 上端と63°で直線的に連続。軟質で、径1mmの石英粒をごくわずかに(5%以下)含む。灰黄色を呈する。幅1～2mm。 44.31～44.85m:粘土混じり岩片状部(Hg) 上端65°で直線的に、下端70°で波打って連続。径5mm前後の粘土化した岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状部からなる。色調は灰褐色(10YR4/2)、厚さ1～2m/m。	●44.24～44.83m:破砕部 44.24～44.31m:粘土質礫状部(Hb) 上端、幅1m/赤色軟質粘土で5～13°で湾曲して、下端35°で直線的に連続。径2～3mm石英粒。径5～18mm(最大25mm)花崗岩片を30%程度含む。灰黄色を呈する。幅45～85mm。 44.31m:粘土状部(Hc-1) 上端と63°で直線的に連続。軟質で、径1mmの石英粒をごくわずかに(5%以下)含む。灰黄色を呈する。幅1～2mm。 44.31～44.85m:粘土混じり岩片状部(Hg) 上端65°で直線的に、下端70°で波打って連続。径5mm前後の粘土化した岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状部からなる。色調は灰褐色(10YR4/2)、厚さ1～2m/m。	●硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細胞部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
105	14.24	44.31	Hb 上端、幅1m/赤色軟質粘土で5～13°で湾曲して、下端35°で直線的に連続。径2～3mm石英粒。径5～10mm(最大25mm)花崗岩片を30%程度含む。半固結状の礫質粘土。色調は灰褐色(2.5Y7/2)、厚さ45～85mm/m。	44.24	44.31	Hb 上端、幅1m/赤色軟質粘土で5～13°で湾曲して、下端35°で直線的に連続。径2～3mm石英粒。径5～10mm(最大25mm)花崗岩片を30%程度含む。半固結状の礫質粘土。色調は灰褐色(2.5Y7/2)、厚さ45～85mm/m。	44.24	44.31	Hb 上端、幅1m/赤色軟質粘土で5～13°で湾曲して、下端35°で直線的に連続。径2～3mm石英粒。径5～10mm(最大25mm)花崗岩片を30%程度含む。半固結状の礫質粘土。色調は灰褐色(2.5Y7/2)、厚さ45～85mm/m。		
106	14.31	44.31	Hc-1 上下端とも35°で直線的に連続。径1m/mの石英粒をごくわずかに(5%以下)含む軟質粘土からなる(砂状)。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。色調は灰黄色(10YR4/2)、厚さ1～2m/m。	44.31	44.31	Hc-1 上下端とも35°で直線的に連続。径1m/mの石英粒をごくわずかに(5%以下)含む軟質粘土からなる(砂状)。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。色調は灰黄色(10YR4/2)、厚さ1～2m/m。	44.24	44.51	Hc-1 上下端とも35°で直線的に連続。径1m/mの石英粒をごくわずかに(5%以下)含む軟質粘土からなる(砂状)。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。色調は灰黄色(10YR4/2)、厚さ1～2m/m。		
107	14.31	44.53	Hj 上端65°で直線的に、下端70°で波打って連続。径5mm前後の粘土化した岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状部からなる。色調は灰褐色(7.5Y6/2)～灰黄(2.5Y8/3)、厚さ140～200m/m	44.31	44.53	Hj 上端65°で直線的に、下端70°で波打って連続。径5mm前後の粘土化した岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状部からなる。色調は灰褐色(7.5Y6/2)～灰黄(2.5Y8/3)、厚さ140～200m/m やや軟質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、連続性及び直線性が良い。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。			Hj 上端65°で直線的に、下端70°で波打って連続。径5mm前後の粘土化した岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状部からなる。色調は灰褐色(7.5Y6/2)～灰黄(2.5Y8/3)、厚さ140～200m/m やや軟質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、連続性及び直線性が良い。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。		
108	14.53	44.83	破砕帯(主せん前面44.66m)	44.53	44.83	破砕帯(最新活動面44.66m) 最も直線の粘土状部	44.53	44.83	●44.53～44.83m:破砕部 44.53～44.66m:粘土混じり岩片状部(H) 上端65°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5～10mmの粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなる。色調は灰褐色(10YR4/2)、厚さ55mm/m。 44.66～44.83m:粘土状部(Hc-1) 上端65°で直線的に連続。下端85°で一部波打って連続。軟質で、径1mmの石英粒をごく少量(5%以下)含む。上・下端側は直線的なせん断面と同方向に幅1～2mm、長さ5～10mmの脈状のマンガニ鉱染部を伴う。色調は灰黄色(10YR4/2)、厚さ4～5m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	●44.53～44.83m:破砕部 44.53～44.66m:粘土混じり岩片状部(H) 上端65°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5～10mmの粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなる。色調は灰褐色(10YR4/2)、厚さ55mm/m。 44.66～44.83m:粘土状部(Hc-1) 上端65°で直線的に連続。下端85°で一部波打って連続。軟質で、径1mmの石英粒をごく少量(5%以下)含む。上・下端側は直線的なせん断面と同方向に幅1～2mm、長さ5～10mmの脈状のマンガニ鉱染部を伴う。色調は灰黄色(10YR4/2)、厚さ4～5m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	●硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細胞部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
109	14.53	44.66	Hj 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5～10mm粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状部からなる。色調は灰褐色(7.5YR7/4)～灰白色(2.5Y8/2)、厚さ55m/m。 やや軟質で、上位の軟質粘土と平行に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	44.53	44.66	Hj 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5～10mm粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状部からなる。色調は灰褐色(7.5YR7/4)～灰白色(2.5Y8/2)、厚さ55m/m。 やや軟質で、上位の軟質粘土と平行に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。			Hj 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5～10mm粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状部からなる。色調は灰褐色(7.5YR7/4)～灰白色(2.5Y8/2)、厚さ55m/m。 やや軟質で、上位の軟質粘土と平行に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。		
110	14.66	44.88	Hc-1 65°で上端直線的、下端一部で波打って連続。径1m/m石英粒を少量(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。上下端側は主せん断面と同方向に幅1～2m/m、長さ5～10m/mの脈状のマンガニ鉱染部を伴う。色調は灰黄色(10YR4/2)、厚さ4～5m/m	44.66	44.88	Hc-1 65°で上端直線的、下端一部で波打って連続。径1m/m石英粒を少量(5%以下)含む軟質粘土からなる(砂状)。上下端側は直線的なせん断面と同方向に幅1～2m/m、長さ5～10m/mの脈状のマンガニ鉱染部を伴う。色調は灰黄色(10YR4/2)、厚さ4～5m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。			Hc-1 65°で上端直線的、下端一部で波打って連続。径1m/m石英粒を少量(5%以下)含む軟質粘土からなる(砂状)。上下端側は直線的なせん断面と同方向に幅1～2m/m、長さ5～10m/mの脈状のマンガニ鉱染部を伴う。色調は灰黄色(10YR4/2)、厚さ4～5m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。		
111	14.68	44.70	Hb 上端64°で一部波打って、下端50～70°で湾曲して連続。径2m/m石英粒径3～5m/m粘土化岩片を計20～30%含む半固結状の礫質粘土状部を呈する。色調は赤赤灰(2.5Y7/2)～灰白色(5YR6/1)、厚さ10～20m/m	44.68	44.70	Hb 上端65°で一部波打って、下端50～70°で湾曲して連続。径2m/m石英粒径3～5m/m粘土化岩片を計20～30%含む半固結状の礫質粘土状部を呈する。色調は赤赤灰(2.5Y7/2)～灰白色(5YR6/1)、厚さ10～20m/m やや軟質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、連続性及び直線性が良い。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。	44.53	44.81	Hb 上端65°で一部波打って、下端50～70°で湾曲して連続。径2m/m石英粒径3～5m/m粘土化岩片を計20～30%含む半固結状の礫質粘土状部を呈する。色調は赤赤灰(2.5Y7/2)～灰白色(5YR6/1)、厚さ10～20m/m やや軟質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、連続性及び直線性が良い。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。		
112	14.70	44.83	Hj 上端65～70°、下端75～85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1m/m以下の灰黄色(10YR4/2)軟質粘土。径5～10mm粘土化岩片と岩片間の脈状～網状白色～淡黄色軟質粘土からなり、全体として、粘土混じり岩片状部を呈する。色調は灰褐色(7.5Y6/2)～淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ30～55m/m。岩片間の基質部には黒褐色のマンガニ鉱染部が存在する。	44.70	44.83	Hj 上端65～70°、下端75～85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1m/m以下の灰黄色(10YR4/2)軟質粘土。径5～10mm粘土化岩片と岩片間の脈状～網状白色～淡黄色軟質粘土からなり、全体として、粘土混じり岩片状部を呈する。色調は灰褐色(7.5Y6/2)～淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ30～55m/m。岩片間の基質部には黒褐色のマンガニ鉱染部が存在する。 やや軟質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、連続性及び直線性が良い。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。			Hj 上端65～70°、下端75～85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1m/m以下の灰黄色(10YR4/2)軟質粘土。径5～10mm粘土化岩片と岩片間の脈状～網状白色～淡黄色軟質粘土からなり、全体として、粘土混じり岩片状部を呈する。色調は灰褐色(7.5Y6/2)～淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ30～55m/m。岩片間の基質部には黒褐色のマンガニ鉱染部が存在する。 やや軟質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、連続性及び直線性が良い。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。		
113	14.83	45.36	D	44.83	45.36	D 淡く軟質し、網目状の灰白色粘土が分布。原岩組織は残存する。	44.83	45.36	44.83～45.36m:D 強く軟質し、網目状の灰白色粘土が分布する。原岩組織は残存する。		

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名：H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事も削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点))	
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	
コア観察カードから正しく転記されているか？			追加変更した情報が正しく転記されているか？			選定した記事内容				
		<input checked="" type="checkbox"/>			<input checked="" type="checkbox"/>					
114	-5.36	45.39	破砕帯(主せん断面45.39m)	45.36	45.39	破砕帯(主せん断面45.39m) 最新活動面は45.39mの粘土の上端が下端の可能性がある			●45.36～45.39m:破砕帯 45.36～45.39m:粘土混じり岩片状部(H) 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。径5mm程度の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。にぶい橙褐色を呈する。幅5～10mm。 45.39m:隣接し粘土状部(Hc-2) 上端とも65°で直線的に連続。一部で幅1mmの本分枝・入れんずる。やや軟質で、径1～2mm石英粒5～10%含む。灰褐色を呈する。幅2mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
115	-5.36	45.39	H 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。径5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。全体的に粘土混じり岩片状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ5～10m/m。	45.36	45.39	H 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。径5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。全体的に粘土混じり岩片状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ5～10m/m。 やや軟質、含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	45.36	45.36		
116	-5.39	45.39	Hc-2 上下端とも65°で直線的に連続。一部で厚さ1m/mの2本のガウジに分枝・入れんずる。φ1～2m/m石英粒5～10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ2m/m	45.39	45.39	Hc-2 上下端とも65°で直線的に連続。一部で厚さ1m/mの2本のガウジに分枝・入れんずる。φ1～2m/m石英粒5～10%含むやや軟質な細粒粘土からなる(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ2m/m				
117	-5.39	46.12	D 幅1m/m前後の軟質な白色粘土層が多い。	45.39	46.12	D 幅1m/m前後の軟質な白色粘土層が多い。強変質しているが母岩の組織は残留する。	45.39	46.12	45.39～46.12m:D 幅1m前後の軟質な白色粘土層が多い。強変質しているが母岩の組織は残留する。	
118	-6.12	46.17	破砕帯(主せん断面46.17m)	46.12	46.17	破砕帯(主せん断面46.44m) 最新活動面は肉眼で認定できない			●46.12～46.17m:破砕帯 46.12～46.16m:粘土質岩片状部(H) 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35°でやや波打って連続。径5～10mの粘土岩片が粘土化基質中に浸透して分布。全体に粘土質岩片状を呈する。せん断面で径10～20の粘土質砕けた細かい割れ目や白色粘土細脈(厚さ1m/m)が分布。色調は淡黄色(2.5Y8/2)、厚さ35m/m。やや軟質で含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
119	-6.12	46.17	H 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35°でやや波打って連続。径5～10mの粘土岩片が粘土化基質中に浸透して分布。全体に粘土質岩片状を呈する。せん断面で径10～20の粘土質砕けた細かい割れ目や白色粘土細脈(厚さ1m/m)が分布。色調は淡黄色(2.5Y8/2)、厚さ35m/m。	46.12	46.16	H 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35°でやや波打って連続。径5～10mの粘土岩片が粘土化基質中に浸透して分布。全体に粘土質岩片状を呈する。せん断面で径10～20の粘土質砕けた細かい割れ目や白色粘土細脈(厚さ1m/m)が分布。色調は淡黄色(2.5Y8/2)、厚さ35m/m。やや軟質で含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	46.12	46.17	46.16～46.17m:隣接し粘土状部(Hc-2) 上端35°でやや波打って、下端35～70°で大きく湾曲して連続。やや硬質で、径1～2mm石英粒、径3mm粘土岩片を20～30%含む。淡黄色～黄褐色を呈する。幅2～10mm。	
120	-6.17	46.17	Hc-2 上下端とも35～70°で大きく湾曲して連続。φ1～2m/m石英粒、φ3m/m粘土岩片を20～30%含む半固結状の粘土(ガウジ)。色調は黒褐(10YR3/1)、厚さ2～10m/m	46.16	46.17	Hc-2 上端33°でやや波打って、下端35～70°で大きく湾曲して連続。φ1～2m/m石英粒、φ3m/m粘土岩片を20～30%含む半固結状のやや硬質な粘土からなる(ガウジ)。色調は淡黄(2.5YR6/3)～黒褐(10YR3/1)、厚さ2～10m/m				
121	-6.17	47.40	D 55°せん断割れ目、幅1m/m赤褐色粘土層。	46.17	47.40	D 変質し、網目状の灰白色粘土が分布	46.17	47.40	46.17～47.40m:D 変質し、灰白色粘土が網目状に分布する。	
122	-6.73	46.73		46.73	46.73	55°せん断割れ目、幅1m/m赤褐色粘土層。赤褐色粘土は途中でせん断し、赤褐色粘土の直下の灰白色の細粒部も不連続で、いずれも連続性に乏しく、割れ目周辺の原岩組織も明確に認められる。また、同様な灰白色の細粒部は、深度46.20m以下に様々な方向で認められる。	46.73	46.73	46.73m:55°割れ目、幅1mmの赤褐色粘土層。赤褐色粘土は途中でせん断し、赤褐色粘土の直下の灰白色の細粒部も不連続で、いずれも連続性に乏しく、割れ目周辺の原岩組織も明確に認められる。また、同様な灰白色の細粒部は、深度46.20m以下に様々な方向で認められる。	
123	-7.40	47.51	破砕帯(主せん断面47.40m)	47.40	47.51	破砕帯(主せん断面47.44m) 最新活動面は47.40mの粘土の上端が下端の可能性がある			●47.40～47.51m:破砕帯 47.40m:粘土状部(Hc-1) 上下端とも58°で直線的に連続。やや軟質で、径1mm石英粒を5%含む。灰褐色を呈する。幅1～2mm。 47.40～47.51m:硬質砂状部(Hb) 上端65°、下端55°で直線的に連続。軟質で、径2～3mm石英粒を20～30%含む。黄褐色を呈する。幅0mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
124	-7.40	47.40	Hc-1 上下端とも58°で直線的に連続。径1m/m石英粒を5%程度含むやや軟質な粘土からなる(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)、厚さ1～2m/m	47.40	47.40	Hc-1 上下端とも58°で直線的に連続。径1m/m石英粒を5%程度含むやや軟質な粘土からなる(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)、厚さ1～2m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。	47.40	47.51		
125	-7.40	47.51	Hb 上端58°、下端55°でいずれも直線的に連続。径2～3m/m石英粒を20～30%含む軟質な「硬質砂状」を呈する。岩片は認められない。色調は黄褐色(10YR5/6)、厚さ70m/m	47.40	47.51	Hb 上端58°、下端55°でいずれも直線的に連続。径2～3m/m石英粒を20～30%含む軟質な「硬質砂状」を呈する。岩片は認められない。色調は黄褐色(10YR5/6)、厚さ70m/m 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。				
126	-7.51	47.80	D 岩組織と多くの割れ目は消滅せずに残存している。砂、マンガンのような換在物をもつ割れ目が多い。	-	-	-	47.51	47.80	47.51～47.80m:D 原岩組織と多くの割れ目は消滅せずに残存している。砂、マンガンのような換在物をもつ割れ目が多い。	
127	-7.80	48.80	CL 20～30°割れ目沿いに薄く散らばった硬さEも徐々に分布する。白色粘土細脈やマンガンの換在物を伴う。	-	-	-	47.80	48.80	47.80～48.80m:CL 20～30°割れ目沿いに薄く散らばった硬さEも徐々に分布する。白色粘土細脈やマンガンの換在物を伴う。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

No.	コア観察コード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	記事	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事	記事	
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度
		コア観察カードから正しく転記されているか?		追加変更した情報が正しく転記されているか?		選定した記事内容	
128	48.80	49.17			48.80	49.17	
129	49.17	49.27			49.17	49.22	
130	49.17	49.20			49.17	49.22	
131	49.20	49.22			49.20	49.22	
132	49.22	49.27			49.22	49.27	
133	49.27	49.40				49.27	49.40
134	49.40	51.94				49.40	51.94
135	-	-	49.45	49.45		49.45	49.45
136	51.06	51.94			51.06	51.94	
137	-	-	50.12	50.15		50.12	50.15
138	51.24	51.62			51.24	51.62	
139	51.63	51.63				51.63	51.63
140	51.94	52.72				51.94	52.72
141	52.16	52.16			52.16	52.16	
142	52.32	52.50				52.32	52.50

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか?				追加変更した情報が正しく転記されているか?				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
143	52.72	52.81	破砕帯(主せん前面52.81m)	52.72	52.81	破砕帯(最新活動面52.8m) 下端の直線的な面	-	52.72	52.8	●52.72~52.81m:破砕帯 52.72~52.81m:粘土混じり岩片状部(H) 上端50°で直線的に、下端14°で波打って連続、径5~10mm岩片(硬さ[D]主体)と岩片間の幅1~2mm隙状~径2~5mm斑点状粘土部からなる。明褐色を呈する。幅40~50mm。 52.80~52.81m:濃混り粘土状部(Hc-2) 上端14°で波打って、下端14°で直線的に連続、軟質で、径1~2mm石英粒、径2~3mm粘土化岩片を10~20%含む。灰白色を呈する。幅7~10mm。	・破砕、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の影蔵は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
144	52.72	52.80	H 上端50°で直線的に、下端14°で波打って連続、φ5~10m/岩片(硬さ[D]主体)と岩片間の幅1~2m/隙状~φ2~5m/斑点状粘土部からなる。全体の「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ40~50m/m。	52.72	52.80	H 上端50°で直線的に、下端14°で波打って連続、φ5~10m/岩片(硬さ[D]主体)と岩片間の幅1~2m/隙状~φ2~5m/斑点状粘土部からなる。全体の「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ40~50m/m。やや軟質、境界部は網目状に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	-	52.72	52.8	-	-
145	52.80	52.81	Hc-2 14°で上端は波打って、下端は直線的に連続、φ1~2m/m石英粒、φ2~3m/m粘土化岩片を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)、色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ7~10m/m	52.80	52.81	Hc-2 14°で上端は波打って、下端は直線的に連続、φ1~2m/m石英粒、φ2~3m/m粘土化岩片を10~20%含む軟質濃混り粘土からなる(ガウジ)、色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ7~10m/m	-	52.81	53.1	52.81~53.17m:D 変質し、軟質化している。30~50°程度の割れ目がみられる。	-
146	52.80	53.17	D	52.81	53.17	D	-	52.81	53.1	-	-
147	53.17	53.22	破砕帯(主せん前面53.17m)	53.17	53.22	破砕帯(最新活動面53.17m)	-	53.17	53.2	●53.17~53.22m:破砕帯 53.17m:濃混り粘土状部(Hc-2) 上下端29°で直線的に連続、軟質で、径1~2mm石英粒を10%程度含む。灰褐色を呈する。幅2mm。 53.17~53.22m:粘土混じり岩片状部(H) 上端29°、下端27°でいずれも直線的に連続、径5mm前後の粘土と岩片間の粘土~砂状部からなる。全体に明褐色を呈するが、上下端付近にはマンガン鉱染を伴い黒褐色化する。幅40mm。	・破砕、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の影蔵は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
148	53.17	53.17	Hc-2 29°で上下端とも直線的に連続、φ1~2m/m石英粒を10%程度含む軟質粘土(ガウジ)、色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ2m/m	53.17	53.17	Hc-2 29°で上下端とも直線的に連続、φ1~2m/m石英粒を10%程度含む軟質濃混り粘土からなる(ガウジ)、色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ2m/m	-	53.17	53.2	-	-
149	53.17	53.22	H 上端29°、下端27°でいずれも直線的に連続、φ5m/m前後の粘土化岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり全体に「粘土混じり岩片状」~「粘土質岩片状」を呈する。上端側と下端側はマンガン鉱染部を伴ない黒褐色化する。色調は明褐色(7.5YR7/1)、厚さ40m/m。	53.17	53.22	H 上端29°、下端27°でいずれも直線的に連続、φ5m/m前後の粘土化岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり全体に「粘土混じり岩片状」~「粘土質岩片状」を呈する。上端側と下端側はマンガン鉱染部を伴ない黒褐色化する。色調は明褐色(7.5YR7/1)、厚さ40m/m。 軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	-	53.17	53.2	-	-
150	53.22	53.45	CL 20~30°の直線的な割れ目が多い。	-	-	-	-	53.22	53.4	53.21~53.45m:CL 20~30°の直線的な割れ目が多い。	-
151	53.22	53.45	(岩級区分欄)CL	53.22	53.45	(岩級区分欄)D	-	53.22	53.4	(岩級区分欄)Dに含める	-
152	53.45	53.54	D 締った砂状を呈する。岩組織と一部の割れ目は残留	-	-	-	-	53.45	53.5	53.45~53.54m:D 締った砂状を呈する。原岩組織と一部の割れ目は残留。	-
153	53.54	56.66	CL 30~50°程度の割れ目が主体	53.54	56.66	CL 30~50°程度の割れ目が主体	-	53.54	56.6	53.54~56.66m:CL 傾斜30~50°の割れ目が主体となる。	-
154	53.87	54.10	石英が多く晶出しφ10~20m/m斑点状~幅1~15m/m45~65°の脈状で分布する。	-	-	-	-	53.87	54.1	53.87~54.10m: 石英が多く晶出し径10~20mm斑点状~幅5~15mm・45~65°の脈状で分布する。 53.87~54.00m:珪質でレンズ状の石英も分布する。	-
155	53.87	54.00	珪質でレンズ状の石英も分布する。	-	-	-	-	53.87	54.0	-	-
156	54.00	54.60	石英顔ない割れ目ぞいに砂状化し、全体がやや脆くなる。また同区間ではマンガン鉱染も伴ない黒褐色を帯びる。	-	-	-	-	54.00	54.6	54.00~54.60m: 石英顔ない割れ目ぞいに砂状化し、全体がやや脆くなる。また同区間ではマンガン鉱染も伴ない黒褐色を帯びる。	-
157	-	-	-	54.82	54.82	傾斜50°、幅2mm以下、黄褐色粘土を挟む。周辺は一部黒色化する。	-	54.82	54.8	54.82m:傾斜50°で幅2mm以下の黄褐色粘土を挟む。周辺は一部黒色化する。	-
158	-	-	-	55.00	55.00	傾斜50°、幅2mm程度のマンガンを挟む。	-	55.00	55.0	55.00m:傾斜50°で幅2mmのマンガンを挟む。	-
159	56.25	56.25	55°のシャープで直線的な割れ目を境とし55.25m~56.66mは硬さ[D]で硬質となる。ただし、割れ目ぞいの一部では風化で砂状化を伴う。粘土は殆んどはさまない。	55.25	56.25	55°のシャープで直線的な割れ目を境とし55.25m~56.66mは硬さ[D]で硬質となる。ただし、割れ目ぞいの一部では風化で砂状化を伴う。粘土は殆んどはさまない。挟んでいるところが多い	-	55.25	56.2	55.25m:55°のシャープで直線的な割れ目を境とし55.25~56.66mは硬さ[D]で硬質となる。ただし、割れ目ぞいの一部では風化で砂状化を伴う。粘土を挟んでいるところが多い。	-
160	56.43	56.47	35°~40°割れ目ぞいに軟化し、硬さ[D]を呈する。	-	-	-	-	56.43	56.4	56.43~56.47m:35~40°割れ目ぞいに軟化し、硬さ[D]を呈する。	-
161	56.66	56.84	風化で締った砂状化する。φ10~20m/mの硬さ[D]の岩片が連続に残留する。	-	-	-	-	56.66	56.8	D 風化で締った砂状化する。径10~20mmの硬さ[D]の岩片が連続に残留する。	-
162	56.66	56.84	(岩級区分欄)D	56.66	56.84	(岩級区分欄)CL	-	56.66	56.8	(岩級区分欄)Dに含める	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	適正化した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
163	56.84	58.77	CL	-	-	-	56.84	58.77	56.84~58.77m: CL	-
164	56.84	57.90	硬さ「D」岩片主体で、一部に硬さ「E」が残留する。57.30m以下では、割れ目ぞいに風化・砂状化が進む。	-	-	-	56.84	57.90	56.84~57.90m: 硬さ「D」岩片主体で、一部に硬さ「E」が残留する。57.30m以下では、割れ目ぞいに風化・砂状化が進む。	-
165	57.75	57.90	コアチューブ引上時に線状コア化したものと推定される。	-	-	-	57.75	57.90	57.75~57.90m: コアチューブ引上時に線状コア化したものと推定される。	-
166	57.90	58.34	硬さ「C」岩片主体2ヶ所に幅1~2m石莖層が密着して分布。各割れ目ぞいに軽微なマンガン鉱染を受ける。	57.90	58.34	硬さ「C」岩片主体2ヶ所[57.96m、45°、58.35m、50°]に幅1~2m/m石莖層が密着して分布。各割れ目ぞいに軽微なマンガン鉱染を受ける。	57.90	58.34	57.90~58.34m: 硬さ「C」岩片主体。57.96m及び58.05mにそれぞれ45°、50°で幅1~2m石莖層が密着して分布。各割れ目ぞいに軽微なマンガン鉱染を受ける。	-
167	58.28	58.28	割れ目交差部周辺で砂状化	-	-	-	58.28	58.28	58.28m: 割れ目交差部周辺で砂状化	-
168	58.34	58.77	硬さ「D」岩片主体。一部の割れ目ぞいで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。	-	-	-	58.34	58.77	58.34~58.77m: 硬さ「D」岩片主体。一部の割れ目ぞいで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。	-
169	58.77	59.82	D 風化で著しく軟化した砂状化部が主体。岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や粘土脈を伴っている。	58.77	59.82	D 風化で著しく軟化した砂状化部が主体。岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈を伴っている。	58.77	59.82	58.77~59.82m: D 風化で著しく軟化した砂状化部が主体。原岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈を伴っている。	-
170	59.18	59.18	20°、厚さ5mmの軟質な灰白色粘土はさむ	-	-	-	59.18	59.18	59.18m: 20°、厚さ5mmの軟質な灰白色粘土はさむ。	-
171	59.28	59.48	割れ目は消滅する。	59.28	59.48	割れ目は消滅する。(コアが乱れている)	59.28	59.48	59.28~59.48m: コアの擾乱により割れ目が消滅している。	-
172	59.60	59.65	3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布。砂や粘土薄層(厚0.5~1m/m)はさむ	59.60	59.65	3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布。砂や灰白色の粘土薄層(厚0.5~1m/m)はさむ	59.60	59.65	59.60~59.65m: 3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布。砂や灰白色の粘土薄層(厚0.5~1m/m)はさむ。	-
173	59.82	59.85	破砕帯(主せん断面59.85m)D-1	59.82	59.85	破砕帯(最新活動面59.85m)D-1 直線的な線状の細粒部	59.82	59.85	●59.82~59.85m: 破砕部 59.82~59.85m: 粘土堆積し岩片状部(H) 上端2°、一部不明瞭で皮打って、下端28°で直線的に連続。 59.85m: 粘土状部(Hc-1) 上端28°、下端28°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石莖層をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、線状構造がみられる。幅5~7mm。	-
174	59.82	59.85	Hj 上端2°、一部不明瞭で皮打って、下端28°で直線的に連続。 φ2~5m/m石莖粒、φ5~10m/m粘土化岩片と岩片間は粘土化した「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は濃い褐(7.5YR6/3)、厚さ30mm	59.82	59.85	Hj 上端2°、一部不明瞭で皮打って、下端28°で直線的に連続。 φ2~5m/m石莖粒、φ5~10m/m粘土化岩片と岩片間は粘土化した「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は濃い褐(7.5YR6/3)、厚さ30mm や軟質。最新部は割れ目に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる	59.82	59.85	●59.82~59.85m: 破砕部 59.82~59.85m: 粘土堆積し岩片状部(H) 上端2°、一部不明瞭で皮打って、下端28°で直線的に連続。 59.85m: 粘土状部(Hc-1) 上端28°、下端28°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石莖層をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、線状構造がみられる。幅5~7mm。	-
175	59.85	59.85	Hc-1 28°で上下端とも直線的に連続。φ1~2m/m石莖粒をわずかに(5%以下)含む軟質な粘土(砂ウツ)。色調は灰褐(7.5YR6/2)~灰白色(1.5YR8/1)で線状模様を呈する。厚さ5~7m/m	59.85	59.85	Hc-1 28°で上下端とも直線的に連続。φ1~2m/m石莖粒をわずかに(5%以下)含む軟質な粘土(砂ウツ)。色調は灰褐(7.5YR6/2)~灰白色(1.5YR8/1)で線状模様を呈する。厚さ5~7m/m	59.85	59.85	59.85m: 粘土状部(Hc-1) 上端28°、下端28°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石莖層をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、線状構造がみられる。幅5~7mm。	-
176	59.85	60.99	CL 60.54m以下は割れ目ぞいに風化が進み、硬さ「E」も含まれている。 60.54m以下は硬質となり硬さ「C」が主体である。前者では、割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。	59.85	60.99	CL 60.54m以下は割れ目ぞいに風化が進み、硬さ「E」も含まれている。 60.54m以下は硬質となり硬さ「C」が主体である。前者では、割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。 60.32~60.46mの間は黄色味を帯びる。	59.85	60.99	59.85~60.99m: CL 60.54m以下は割れ目ぞいに風化が進み、硬さ「E」も含まれている。 60.54m以下は硬質となり硬さ「C」が主体である。 前者では、割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。 60.32~60.46mの間は黄色味を帯びる。	-
177	60.99	61.38	CH 堅硬。割れ目に夾在物は少ない。	-	-	-	60.99	61.38	60.99~61.38m: CH 堅硬。割れ目に夾在物はない。	-
178	60.99	61.38	(岩級区分欄)CH	60.99	61.38	(岩級区分欄)CM	60.99	61.38	(岩級区分欄)CMに含める	-
179	61.38	63.61	CM 上端部の61.38~61.42m間と62.82m以下は、割れ目ぞいに風化が進み砂状化する部分があるが、その他区間では割れ目に夾在物はほとんど分布しない。	-	-	-	61.38	63.61	61.38~63.61m: CM 上端部の61.38~61.42m間と62.82m以下は、割れ目ぞいに風化が進み砂状化する部分があるが、その他区間では割れ目に夾在物はほとんど分布しない。	-
180	62.53	62.57	互いに直交する割れ目交差部で一部細片化するが、砂状化や粘土化による劣化は伴わない。	-	-	-	62.53	62.57	62.53~62.57m: 互いに直交する割れ目交差部で一部細片化するが、砂状化や粘土化による劣化は伴わない。	-
181	62.82	63.61	岩片は硬いが(硬さ「B」)、割れ目ぞいに幅2~10m/m程度砂状~細かく片状化する。粘土化部や粘土脈は少ない。	-	-	-	62.82	63.61	62.82~63.61m: 岩片は硬いが(硬さ「B」)、割れ目ぞいに幅2~10m/m程度砂状~細かく片状化する。粘土化部や粘土脈は少ない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

No.	コア観察コード		適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事(削除・変更・追記)した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度		下端深度
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			適正化した記事内容
182	43.61	64.00	D 割れ目ぞいの風化が密し、進み砂状化する。φ10~60mm硬さ「D」「C」岩片が残留し、「砂礫状」呈する。一部で割れ目が後留している。	-	-	-	63.61	64.00	63.61~64.00m:D 割れ目ぞいの風化が密し、進み砂状化する。径10~60mm硬さ「D」「C」岩片が残留し、「砂礫状」呈する。一部で割れ目が後留している。
183	43.90	63.94	60° 幅1~3m/m石英脈が2条分布。	-	-	-	63.90	63.94	63.90~63.94m:60° 幅1~3m/m石英脈が2条分布。
184	44.00	64.33	CL 50~60° と70° 割れ目がほぼ直交し、交差部ではφ10m/m程度に細かく岩片化する部分もある。	-	-	-	64.00	64.33	64.00~64.33m:CL 50~60° と70° 割れ目がほぼ直交し、交差部では径10mm程度に細かく岩片化する部分もある。
185	44.00	64.33	(岩級区分欄)CL	64.00	64.33	(岩級区分欄)D	64.00	64.33	(岩級区分欄)Dに含める
186	44.33	66.07	CM 割れ目の多くは割れ目ぞいに薄く砂状化する。	-	-	-	64.33	66.07	64.33~66.07m:CM 割れ目の多くは割れ目ぞいに薄く砂状化する。
187	45.22	65.30	40° と70° 割れ目が交差し、幅10~20m/mと風化砂状部が拡大している。またわずかながら白色粘土や微細な黄鉄鉱、セリサイトも伴っている。	-	-	-	65.22	65.30	65.22~65.30m: 40° と70° 割れ目が交差し、幅10~20mmと風化砂状部が拡大している。また、わずかながら白色粘土や微細な黄鉄鉱、セリサイトも伴っている。
188	45.90	65.90	φ20m/mと大型な石英斑晶が晶出。	-	-	-	65.90	65.90	65.90m:径20mmと大型な石英斑晶が晶出。
189	46.07	66.62	CL 風化したゆる割れ目や密度の低い割れ目が多くハンマーの軽打で細片化する。	-	-	-	66.07	66.62	66.07~66.62m:CL 風化したゆる割れ目や密度の低い割れ目が多く、ハンマーの軽打で細片化する。
190	46.62	67.14	D φ5~20m/m硬質岩片と風化による砂状部からなり、砂状部を呈する。66.63m以降では岩組織や割れ目の一部も残留する。また、部分的に灰白~淡黄色粘土も点在する。	-	-	-	66.62	67.14	66.62~67.14m:D 径5~20mm硬質岩片と風化による砂状部からなり、砂礫状を呈する。66.63m以降では岩組織や割れ目の一部も残留する。また、部分的に灰白~淡黄色粘土も点在する。
191	-	-	-	66.97	66.97	傾斜5° 幅1~5mmの黄灰色粘土を挟む	66.97	66.97	66.97m:傾斜5° で幅1~5mmの黄灰色粘土を挟む。
192	47.14	67.27	CL 50° 割れ目ぞいに軟化が進む	-	-	-	67.14	67.27	67.14~67.27m:CL 50° 割れ目ぞいに軟化が進む。
193	47.14	67.27	(岩級区分欄)CL	67.14	67.27	(岩級区分欄)D	67.14	67.27	(岩級区分欄)Dに含める
194	47.27	67.80	CM 割れ目ぞいに砂状化するものが多い。67.40~67.47m間にφ5~10m/mに砕け角礫状化する。	-	-	-	67.27	67.80	67.27~67.80m:CM 割れ目ぞいに砂状化するものが多い。67.40~67.47m:径5~10mmに砕け角礫状化する。
195	47.80	67.93	D 50~60° 割れ目ぞいに砂状化し、φ10m/m硬質岩片を含む砂礫状呈する。	-	-	-	67.80	67.93	67.80~67.93m:D 50~60° 割れ目ぞいに砂状化し、径10mm硬質岩片を含む砂礫状呈する。
196	47.80	67.93	(岩級区分欄)D	67.80	67.93	(岩級区分欄)CL	67.80	67.93	(岩級区分欄)CLに含める
197	47.93	68.15	CL 45° 割れ目ぞいに薄い砂状部を挟む。	-	-	-	67.93	68.15	67.93~68.15m:CL 45° 割れ目ぞいに薄い砂状部を挟む。
198	48.15	68.60	CM 割れ目に挟む物は分布しない	-	-	-	68.15	68.60	68.15~68.60m:CM 割れ目に挟む物は分布しない。
199	48.15	68.60	(岩級区分欄)CM	68.15	68.60	(岩級区分欄)CL	68.15	68.60	(岩級区分欄)CLに含める
200	48.43	68.49	φ5~20m/m硬質岩片を砕けて片状に砕けているが砂や粘土は含まれない。	68.43	68.49	コアチューブ引き上げ部の擾乱で、径5~20mm硬質岩片を砕けて片状に砕けているが砂や粘土は含まれない。	68.43	68.49	68.43~68.49m: コアチューブ引き上げ部の擾乱で、径5~20mm硬質岩片を砕けて片状に砕けているが砂や粘土は含まれない。
201	48.60	69.05	D 軟化著しい硬さ「E」であるが、岩組織や割れ目は明瞭に残留している。 上端の68.60~68.65mは砂状化を呈するが、これはコア引上げ時で生じた可能性が高い。 68.79~68.96m間は硬さの硬質部を含む。 68.96~69.06mは風化が密しく明黄褐色を呈する。	68.60	69.05	D 軟化著しい硬さ「E」であるが、岩組織や割れ目は明瞭に残留している。 上端の68.60~68.65mは砂状化を呈するが、これはコア引上げ時で生じた可能性が高い。 68.79~68.96m間は硬さの硬質部を含む。 68.96~69.06mは風化が密しく明黄褐色を呈する。	68.60	69.05	68.60~69.05m:D 軟化著しい硬さ「E」であるが、岩組織や割れ目は明瞭に残留している。 68.60~68.65m:コアチューブ引き上げ部の擾乱で砂状化している。 68.79~68.96m:硬さの硬質部を含む。 68.96~69.06m:風化が密しく明黄褐色を呈する。
202	48.60	69.05	(岩級区分欄)D	68.60	69.05	(岩級区分欄)CL	68.60	69.05	(岩級区分欄)CLに含める
203	-	-	-	68.79	68.96	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)δランク	68.79	68.96	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)δランク

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			適定した記事内容
204	69.05	69.56	CL 30~50° 割れ目主体。密着度の低い中着割れ目も多く含む。 割れ目ぞいに厚さ1m/m程度と薄く砂状化することが多い。	69.05	69.56	CL 30~50° 割れ目主体。密着度の低い中着割れ目も多く含む。 割れ目ぞいに厚さ1m/m程度と薄く砂状化することが多い。	69.05	69.56	61.05~69.56m:CL 33~50° 割れ目主体。密着度の低い中着割れ目も多く含む。 割れ目ぞいに厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。
205	69.07	69.07	厚さ2~3m/mマンガンが脈状に分布	69.07	69.10	厚さ2~3m/mマンガンが脈状に分布 幅3cm程度でマンガンが濃集する	69.07	69.10	69.07~69.10m:幅3cmでマンガンが濃集する。
206	69.56	69.70	D 少量の白色粘土細脈を伴う。	-	-	-	69.56	69.70	69.56~69.70m:D 少量の白色粘土細脈を伴う。
207	69.56	69.70	(岩脈区分欄)D	69.56	69.70	(岩脈区分欄)CL	69.56	69.70	(岩脈区分欄)CLに含める
208	69.7C	69.73	破砕帯(主せん断面69.70m)	69.70	69.73	破砕帯(最新活動面69.70m) 直線的な細粒部	69.70	69.73	●69.70~69.73m:破砕部 69.70m:粘土状部(Hc-1) 上下端55°で直線的に連続。軟質で、にぶい黄褐色を呈する。幅1mm。 69.70~69.73m:粘土量じり岩片状部(H) 上端55°で、下端57°でいずれも直線的に連続。径3~10mm硬さE(粘土化)。Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。幅23mm。
209	69.7C	69.70	Hc-1 95°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟弱粘土(分ク)。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)。厚さ1m/m。	69.70	69.70	Hc-1 95°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟弱粘土(分ク)。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)。厚さ1m/m。 幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無は不明。	69.70	69.73	
210	69.7C	69.73	H 上端55°で、下端57°でいずれも直線的に連続。φ3~10mm硬さE(粘土化)。Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。全体として「粘土量じり岩片状」を呈する。色調は灰黄色(2.7Y7/2)。厚さ1m/m	69.70	69.73	H 上端55°で、下端57°でいずれも直線的に連続。φ3~10mm硬さE(粘土化)。Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。やや硬く全体として「粘土量じり岩片状」を呈する。色調は灰黄色(2.7Y7/2)。厚さ23m/m 細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる	69.70	69.73	
211	69.7C	74.10	CL 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現する。硬さ「D」では割れ目に砂などの挟在物が分布するが、硬さ「C」区間では挟在物は殆んど分布しない。	-	-	-	69.73	74.10	69.73~74.10m:CL 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現する。硬さ「D」では割れ目に砂などの挟在物が分布するが、硬さ「C」区間では挟在物は殆んど分布しない。
212	70.0E	70.09	45° 割れ目ぞいに風化で砂状化する。 70.43~71.27mの硬さ「C」のうち、70.49~70.59mではφ5m/mの白濁化した長石が多い。70.59m以後では少ない。	-	-	-	70.06	70.59	70.06~70.59m:45° 割れ目ぞいに風化で砂状化する。 70.43~71.27m:硬さ「C」のうち、70.49~70.59mでは径5mmの白濁化した長石が多い。70.59m以後では少ない。
213	71.27	71.60	45~60° 幅1m/m以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。	-	-	-	71.27	71.60	71.27~71.60m: 45~60° 幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。
214	71.37	71.50	φ10mm前後の大型の石英斑晶が点在。岩片も硬さ「C」と周囲より硬質化している。	-	-	-	71.37	71.50	71.37~71.50m: 径10mm前後の大型の石英斑晶が点在。岩片も硬さ「C」と周囲より硬質化している。
215	-	-	-	71.37	71.50	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)Aランク	71.37	71.50	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)Aランク
216	71.88	71.88	0~10° 幅1m/m石英脈が密着して連続。	-	-	-	71.88	71.88	71.88m:0~10° 幅1mm石英脈が密着して連続。
217	72.1C	72.74	硬さ「C」区間では割れ目挟在物は殆んど分布しない。長石の一部は白濁化する。	-	-	-	72.10	72.74	72.10~72.24m: 硬さ「C」区間では割れ目挟在物はほとんど分布しない。長石の一部は白濁化する。
218	72.74	74.10	硬さ「D」主体だが、硬さ「C」の岩片も含んでいる。割れ目ぞいに風化、砂状化することがある。	-	-	-	72.74	74.10	72.74~74.10m: 硬さ「D」主体だが、硬さ「C」の岩片も含んでいる。割れ目ぞいに風化、砂状化することがある。
219	73.35	73.38	厚さ25~40m/mで締った砂状化を呈する。岩組織は残留している。	73.35	73.38	厚さ25~40m/mで締った砂状化を呈する。変質している。岩組織は残留している。	73.35	73.38	73.35~73.38m: 厚さ25~40mmで締った砂状化を呈する。変質している。原岩組織は残留している。
220	73.65	73.76	30°と60°の割れ目が交差しφ10~50m/mの岩片状コアを呈する。	-	-	-	73.65	73.76	73.65~73.76m: 30°と60°の割れ目が交差し、径10~50mmの岩片状コアを呈する。
221	74.10	74.36	CM	-	-	-	74.10	74.36	74.10~74.36m:CM
222	74.10	74.36	(岩脈区分欄)CM	74.10	74.36	(岩脈区分欄)CL	74.10	74.36	(岩脈区分欄)CLに含める





コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事の削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事		記事		記事		記事		記事		記事			
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		
238	-	-	-	76.70	76.91	(割れ目状組織)cランク	-	76.70	76.9	(割れ目状組織)cランク	-	-	-
239	76.70	76.91	岩片はわずかになり、代って幅1~2mm軟質白色粘土層が多くなる。	-	-	-	-	76.70	76.9	76.70~76.91m: 岩片はわずかになり、代って幅1~2mm軟質白色粘土層が多くなる。	-	-	-
240	76.91	77.19	CL 割れ目ぞいに砂状化するものもある。	-	-	-	-	76.91	77.11	76.91~77.19m: CL 割れ目ぞいに砂状化するものもある。	-	-	-
241	76.91	77.19	(岩級区分)CL	76.91	77.19	(岩級区分)D	-	76.91	77.11	(岩級区分)Dに含める	-	-	-
242	-	-	-	77.10	77.10	傾斜角 幅1mmの石英層を伴う	-	77.10	77.11	77.10m: 傾斜角 幅1mmの石英層を伴う。	-	-	-
243	77.19	78.00	D 著しく乾化するが、岩組織と割れ目の一部は残存する。 77.83~77.80間はロット引上げ時にコアが乱れ、雜状を呈している。	-	-	-	-	77.19	78.01	77.19~78.00m: D 著しく乾化するが、原岩組織と割れ目の一部は残存する。 77.83~77.80m: ロット引上げ時にコアが乱れ、雜状を呈している。	-	-	-
244	78.00	78.43	CL 60~80° 割れ目主体、これに斜~直交する30°も混入する。 割れ目の一部は厚さ2~3mmの砂をはさむ	-	-	-	-	78.00	78.41	78.00~78.43m: CL 60~80° 割れ目主体、これに斜~直交する30°も混入する。 割れ目の一部は厚さ2~3mmの砂を挟む。	-	-	-
245	78.00	78.43	(岩級区分)CL	78.00	78.43	(岩級区分)D	-	78.00	78.41	(岩級区分)Dに含める	-	-	-
246	78.43	78.72	D 風化・砂状化が拡大し、締った砂雜状を呈する。	-	-	-	-	78.43	78.71	78.43~78.72m: D 風化・砂状化が拡大し、締った砂雜状を呈する。	-	-	-
247	78.60	78.60	周辺はマンガン変染を受ける。	-	-	-	-	78.60	78.60	78.60m 周辺はマンガン変染を受ける。	-	-	-
248	78.72	78.87	破砕帯(主せん断面78.87m)	78.72	78.87	破砕帯(主せん断面78.87m) 最新活動面は78.82mか78.87mの可能性がある	-	78.72	78.87	●78.72~78.87m: 破砕帯 78.72~78.87m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端は31°、幅5mm褐色粘土層で波打って、下端は60°で直線的に連続。 ●78.87m: 粘土状部(Hc-1) 上端60°で、下端60°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。	-	-	-
249	78.72	78.87	H 上端は31°、幅5mm褐色粘土層で波打って、下端は直線的に連続。φ5mm程度の岩片からなり、岩片間の一部は幅1mmの軟質白色粘土が隙状に分布。全求として「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ130~140mm。	78.72	78.87	H 上端は31°、幅5mm褐色粘土層で波打って、下端は60°で直線的に連続。φ5mm程度の岩片からなり、岩片間の一部は幅1mmの軟質白色粘土が隙状に分布。全求として「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ130~140mm。 やや硬質、含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	78.72	78.87	●78.72~78.87m: 破砕帯 78.72~78.87m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端は31°、幅5mm褐色粘土層で波打って、下端は60°で直線的に連続。 ●78.87m: 粘土状部(Hc-1) 上端60°で、下端60°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色を呈する。幅1~2mm。	-	-	-	-
250	78.87	78.87	Hc-1 60°で上下端とも直線的に連続。φ1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土からなる。分厚く、色調は灰褐色(7.5YR4/2)。厚さ1~2m/m	78.87	78.87	Hc-1 60°で上下端とも直線的に連続。φ1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土からなる。分厚く、色調は灰褐色(7.5YR4/2)。厚さ1~2m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。	-	-	-	-	-	-	-
251	78.87	82.51	CL	-	-	-	-	78.87	82.5	78.87~82.51m: CL	-	-	-
252	78.87	79.27	硬さ[D]主体。長石の白濁化が多い。	78.87	79.27	硬さ[D]主体。長石の白濁化が多い。傾斜65~90°の割れ目が分布する。	-	78.87	79.27	78.87~79.27m: 硬さ[D]主体。長石の白濁化が多い。傾斜85~90°の割れ目が分布する。	-	-	-
253	79.02	79.02	55°厚さ3mm褐色砂~φ2mm細片化岩片はさむ	-	-	-	-	79.02	79.02	79.02m: 55°厚さ3mm褐色砂~径2mm細片化岩片はさむ。	-	-	-
254	79.27	80.66	硬さ[C]主体 上端側の79.27~79.59mは硬さ[B]と堅硬	-	-	-	-	79.27	80.66	79.27~80.66m: 硬さ[C]主体。 上端側の79.27~79.59mは硬さ[B]と堅硬。	-	-	-
255	-	-	-	79.27	79.59	(コアの硬さ欄)Bランク	-	79.27	79.9	(コアの硬さ欄)Bランク	-	-	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それらの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 適正化した記事内容			
256	-	-	79.54	79.54	傾斜角 幅0.5~1mmの灰白色粘土挟む。	79.54	79.54	79.54m:傾斜角 幅0.5~1mmの灰白色粘土を挟む。	-		
257	79.69	79.95	-	-	-	79.69	79.95	79.69~79.95m:褐色化するが理化的ため硬さ「C」と硬質。	-		
258	79.96	80.23	-	-	-	79.96	80.23	79.96~80.23m:45° 前後の割れ目が多い。これらの割れ目には褐色粘土やマンガンを含み0.5~0.9 m/mではさんでいる。	-		
259	30.30	80.40	-	-	-	80.30	80.40	80.30~80.40m:割れ目合いに砂状化が進む。	-		
260	30.30	80.35	-	-	-	80.30	80.35	80.30~80.35m:コアチューブ引き上げ時に発生した角礫状コア。	-		
261	30.66	81.87	-	-	-	30.66	81.87	80.85~81.87m:硬さ「D」中に硬さ「C」の径2~3cm岩片が断片的に分布。硬さ「D」中に硬さ「C」の径2~3cm岩片が断片的に分布。80° 前後の急角度割れ目が多い。	-		
262	31.17	81.17	81.17	81.17	55° 割れ目に厚さ10~15m/mで砂と褐色粘土はさむ。挟在物中と割れ目周辺に径0.5m/m以下の微細な黄鉄鉱伴う。 周辺は幅1cm程度緑色化している。	81.17	81.17	81.17m:55° 割れ目に厚さ10~15mmで砂と褐色粘土挟む。挟在物中と割れ目周辺に径0.5mm以下の微細な白雲母伴う。周辺は幅1cm程度緑色化している。	-		
263	31.82	81.87	81.82	81.87	コア引き上げ時に砂状化が進む。	81.82	81.87	81.82~81.87m:コアチューブ引き上げ時に砂状化が進む。	-		
264	31.87	82.51	81.87	82.51	割れ目合いに砂状化する部分も含まれる。 10~30° と50~70° 程度の割れ目がみられる。	81.87	82.51	81.87~82.51m:割れ目合いに砂状化する部分も含まれる。10~30° と50~70° 程度の割れ目がみられる。	-		
265	32.51	82.62	-	-	-	32.51	82.62	82.51~82.62m:D 風化で砂状化する。径0.5~1cmの砂岩片が塊状に分布する。	-		
266	32.51	82.62	82.51	82.62	(岩級区分欄)D	82.51	82.62	(岩級区分欄)Dに含める	-		
267	32.62	82.94	-	-	-	32.62	82.94	82.62~82.94m:CL 割れ目合いに砂状化進む。一部で幅1~2mm白色粘土脈はさむ。	-		
268	32.94	84.09	82.94	84.09	CM ゆる割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。割れ目の挟在物は少ない。	82.94	84.09	82.94~84.09m:CM ゆる割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。割れ目の挟在物は少ない。30~50° と70~90° の割れ目が3~10cm間隔で分布する。	-		
269	83.30	83.47	-	-	-	83.30	83.47	83.30~83.47m:長石の一部が白濁化する。	-		
270	84.07	84.09	-	-	-	84.07	84.09	84.07~84.09m: 上端45°、下端45° 割れ目で囲まれ、砂状化~細片状化する。厚さ1~10m/mで厚さ3m/mレンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染伴う。	-		
271	84.09	84.92	-	-	-	84.09	84.92	84.09~84.92m:CH 60~80° の高角度の「ゆる割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。	-		
272	84.50	84.50	-	-	-	84.50	84.50	84.50m:36° 割れ目の一部に厚さ2~3mmのマンガンを伴う。	-		
273	84.82	84.92	84.82	84.92	割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴わない。 コア引き上げ時	84.82	84.92	84.82~84.92m: コアチューブ引き上げ時の擾乱により、割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴わない。	-		
274	84.92	85.38	84.92	85.38	CL 下位破砕部の直線的なせん断面と同方向の50~60° 割れ目やゆる割れ目が多い。	84.92	85.38	84.92~85.38m:CL 下位破砕部の直線的なせん断面と同方向の50~60° 割れ目やゆる割れ目が多い。	-		
275	85.01	85.01	-	-	-	85.01	85.01	85.01m:幅1mm以下、22° 石英脈が50° 割れ目と斜交して連続。	-		
276	85.38	85.41	85.38	85.41	(岩級区分欄)D	85.38	85.41	(岩級区分欄)Dに含める	-		



コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	
	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	
	コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		選定した記事内容		
296	19.25	89.56	-	-	89.25	89.56	89.25~89.56m: 上下に比べやや割れ目が少なくなる。
297	-	-	89.25	89.56	89.25	89.56	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)Aランク (変質欄)2ランク
298	19.56	89.86	-	-	89.56	89.86	89.56~89.86m: 割れ目深いに風化が進み全体脆くなる(硬さD)。
299	-	-	89.86	90.28	89.86	90.21	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)Aランク (変質欄)2ランク
300	-	-	90.43	90.67	90.43	90.67	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)Aランク (変質欄)2ランク
301	-	-	90.70	91.00	90.70	91.01	傾斜80°の割れ目が発達
302	11.16	91.25	91.16	91.25	91.16	91.21	低角と高角割れ目が交差し、径10m/m前後の細岩片状に砕けている。 下端にマンガン鉱染伴う。
303	-	-	91.25	91.73	91.25	91.71	(コアの硬さ欄)3ランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)Aランク (変質欄)2ランク
304	-	-	91.73	91.87	91.73	91.87	(コアの硬さ欄)3ランク (風化欄)Aランク (変質欄)2ランク
305	12.32	92.32	92.32	92.32	92.32	92.31	53°割れ目ぞいに径0.5m/m前後の雲母(セリサイト?)が晶出している。 周辺は径3mmで緑色化
306	-	-	92.40	92.60	92.40	92.61	(コアの硬さ欄)3ランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)Aランク (変質欄)2ランク
307	-	-	92.60	92.85	92.60	92.85	(コアの硬さ欄)3ランク (風化欄)Aランク (変質欄)2ランク
308	-	-	92.60	93.00	92.60	93.00	傾斜45°の割れ目が多く、マンガンを伴うものが多い
309	13.53	94.00	93.53	93.61	93.53	93.61	D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。マンガン濃集する
310	13.53	94.00	93.53	94.00	93.53	94.00	(岩級区分欄)D
311	-	-	93.53	93.61	93.53	93.61	(コアの形状欄)VIランク (割れ目形状欄)4ランク (風化欄)Bランク
312	-	-	93.61	94.07	-	-	傾斜90°~90°の割れ目がみられ、マンガンを伴うものが多い。
313	-	-	93.61	94.00	93.61	94.00	(コアの硬さ欄)Dランク (風化欄)Bランク
314	14.00	95.85	-	-	94.00	95.85	94.00~95.85m: CL
315	14.07	94.88	94.07	94.88	94.07	94.88	上下端65°で貫入するアブライト 上下端とも割れ目化し、破砕や変質粘土は伴わない。 貫入面(85°)に90°斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。一部で層状の炭層(65°~90°)がみられる。 直上のOpと直下のApに破砕や変質は与えていない。
316	-	-	94.88	97.00	94.88	97.00	アブライト

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
317	-	-	94.88	97.00	(地質名欄)アブライト	94.88	97.00	(地質名欄)アブライト	-	
318	-	-	94.88	95.67	傾斜20~60°の割れ目0~一部に幅1~2mmの灰白色粘土やマンガンを伴う。	94.88	95.67	94.88~95.67m: 傾斜30~60°の割れ目の一部に幅1~2mmの灰白色粘土やマンガンを伴う。	-	
319	95.22	95.25	-	-	-	95.22	95.25	95.22~95.25m: 割れ目沿いに砂状化、マンガン伴う。	-	
320	95.30	95.45	-	-	-	95.30	95.45	95.30~95.45m: 緑色帯びる。	-	
321	-	-	95.45	95.85	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)Aランク (変質欄)2ランク	95.45	95.85	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)Aランク (変質欄)2ランク	-	
322	-	-	95.85	97.57	(風化欄)Aランク (変質欄)2ランク	95.85	97.57	(風化欄)Aランク (変質欄)2ランク	-	
323	95.85	96.58	95.85	96.58	CM 硬さBと硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で薄片化する。 傾斜10~20°とそれと直交する50°の割れ目がみられる。	95.85	96.58	95.85~96.58m: CM 硬さBと硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で薄片化する。 傾斜10~20°とそれと直交する50°の割れ目がみられる。	-	
324	96.00	96.10	-	-	-	96.00	96.10	96.00~96.10m: 割れ目沿いに幅1~2mm砂状化し、灰白色粘土も挟む。	-	
325	-	-	96.71	96.76	傾斜50°程度の割れ目が密集し薄片化する。コアは軟質(硬さD)。	96.71	96.76	96.71~96.76m: 傾斜50°の割れ目が密集し薄片化する。コアは軟質である。	-	
326	-	-	97.00	140.00	花崗斑岩 全体に理化し、組織が不明瞭になっている所々、アブライトを挟む。	97.00	140.00	97.00~140.00m: 花崗斑岩 全体に理化し、組織が不明瞭になっている所々、アブライトを挟む。	-	
327	96.58	97.57	96.58	97.11	CL 傾斜50°程度の割れ目が多く、一部に幅1mmの灰白色粘土や砂状化した部分を挟む。	96.58	97.11	96.58~97.11m: CL 傾斜50°程度の割れ目が多く、一部に幅1mmの灰白色粘土や砂状化した部分を挟む。	-	
328	97.00	97.12	97.00	97.12	割れ目沿いに砂状化し、全体が軟くなる。	-	-	-	-	
329	-	-	97.11	97.57	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク	97.11	97.57	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク	-	
330	-	-	97.57	101.85	アブライトを挟む。 花崗斑岩との境界は上端45°の割れ目、下端90°で中着している。 101.20~101.60m間は斑晶がやや多く花崗斑岩となる。 アブライトとの境界は漸移的である。	97.57	101.85	97.57~101.85m: アブライトを挟む。 花崗斑岩との境界は上端45°の割れ目、下端90°で中着している。 101.20~101.60m間は斑晶がやや多く花崗斑岩となる。 アブライトとの境界は漸移的である。	-	
331	-	-	97.57	101.20	(地質名欄)アブライト	97.57	101.20	(地質名欄)アブライト	-	
332	97.57	97.88	97.57	97.88	D 硬さCの岩片も残留するが、全体は締った土砂状 下端付近の97.85mに40°幅1~5mm赤褐色鉱物脈が分布 全体にマンガン脈を挟み、97.71~97.85m間は大きくうねった割れ目が密集する。	97.57	97.88	97.57~97.88m: D 硬さCの岩片も残留するが、全体は締った土砂状。 下端付近の97.85mに40°幅1~5mm赤褐色鉱物脈が分布。 全体にマンガン脈を挟み、97.71~97.85m間は大きくうねった割れ目が密集する。	-	
333	97.57	97.88	97.57	97.88	(岩級区分欄)D	97.57	97.88	(岩級区分欄)Dに含める	-	
334	97.88	100.51	-	-	CM 硬質で風化と変質も顕著な 密着度が低い割れ目や中着割れ目が多く10cm以上の柱状コアはこくわずか。割れ目挟在物に殆んど認められない。	97.88	100.51	97.88~100.51m: CM 硬質で風化と変質も顕著な。 密着度が低い割れ目や中着割れ目が多く10cm以上の柱状コアはこくわずか。割れ目挟在物はほとんど認められない。	-	
335	-	-	97.88	101.00	割れ目沿いに酸化・マンガン汚染がみられる。	97.88	101.00	97.88~101.00m: 割れ目沿いに酸化・マンガン汚染がみられる。	-	
336	-	-	97.88	100.51	(割れ目状態欄)Bランク	97.88	100.51	(割れ目状態欄)Bランク	-	
337	99.03	99.03	-	-	-	99.03	99.03	99.03m: 35°割れ目に数個の黄鉄鉱が晶出している。	-	
338	-	-	99.38	99.38	傾斜12°の割れ目に沿ってマンガン汚染がみられる。	-	-	-	9188~10100mの記載に含めたため削除した	
339	100.00	100.51	-	-	-	100.00	100.51	100.00~100.51m: 中着割れ目や密着度の低い割れ目が多く薄片化し易い。	-	
340	100.51	100.72	100.51	100.72	CL 風化で一部割れ目沿いに砂状化しマンガン鉱染も受ける。	100.51	100.72	100.51~100.72m: CL 風化で一部割れ目沿いに砂状化し、幅5~10mmでマンガン鉱染も受ける。	-	
341	100.51	100.72	100.51	100.72	(岩級区分欄)CM	100.51	100.72	(岩級区分欄)CMに含める	-	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

	コア観察コード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事E削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)			
	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		選定した記事内容		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
342	100.72	102.35	CM 割れ目には挟雑物は殆んど認められない。一部でゆる割れ目や密度度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。全体にφ2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。 101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目ぞいに片状~塊状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。	CM 割れ目には挟雑物は殆んど認められない。一部でゆる割れ目や密度度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。全体にφ2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。 101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目ぞいに片状~塊状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。	100.72	102.35	100.72	102.35	100.72~102.35m: CM 割れ目には挟雑物は殆んど認められない。一部でゆる割れ目や密度度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。全体にφ2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。 101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目ぞいに片状~塊状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。	
343	-	-	-	(地質名欄)花崗斑岩	101.20	101.60	101.20	101.60	(地質名欄)花崗斑岩	
344	-	-	-	(地質名欄)アブライト	101.60	101.85	101.60	101.85	(地質名欄)アブライト	
345	-	-	-	傾斜角~90°の割れ目〇一部に白色脈(幅2mm以下)を挟む	101.61	101.72	101.61	101.72	101.61~101.72m: 傾斜角~90°の割れ目の一部に白色脈(幅2mm以下)を挟む。	
346	102.05	102.35	高角度で密度度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。	-	-	-	-	102.05~102.35m: 高角度で密度度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。		
347	102.05	102.05	102.05~	102.05	102.05	102.05	-	-		
348	102.35	107.40	CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンを挟むが全体では挟雑物は殆んど含まない。φ2~5m/mの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。	CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンを挟むが全体では挟雑物は殆んど含まない。φ2~5m/mの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。	102.35	105.00	102.35	105.00	102.35~105.00m: CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンを挟むが全体では挟雑物は殆んど含まない。φ2~5m/mの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。	
349	-	-	-	傾斜角° 幅1mmの石英脈を伴う	102.65	102.65	102.65	102.65	102.65m: 傾斜角°で幅1mmの石英脈を伴う。	
350	-	-	-	傾斜角°の割れ目に沿って白濁化している	102.75	102.75	102.75	102.75	102.75m: 傾斜角°の割れ目に沿って白濁化している。	
351	-	-	-	傾斜角~80°で互いに交差する幅1~5mmの石英脈を伴う。	103.30	103.30	103.30	103.30	103.30m: 傾斜角~80°で互いに交差する幅1~5mmの石英脈を伴う。	
352	103.52	103.54	割れ目ぞいに薄く砂状化する。	-	-	-	-	103.52~103.54m: 割れ目ぞいに薄く砂状化する。		
353	-	-	-	傾斜角°の割れ目に沿って幅5mm程度緑色化している	103.98	103.98	103.98	103.98	103.98m: 傾斜角°の割れ目に沿って幅5mm程度緑色化している。	
354	-	-	-	(コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)cランク	105.00	105.38	105.00	105.38	(コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)cランク	
355	105.23	105.25	65°割れ目は幅1~3m/mの緑色粘土脈を挟む。破壊は伴わない。	-	-	-	-	105.23~105.25m: 65°割れ目は幅1~3m/mの緑色粘土脈を挟む。破壊は伴わない。		
356	-	-	-	傾斜角°、幅1mmの緑灰色粘土を挟む	105.72	105.72	105.72	105.72	105.72m: 傾斜角°で幅1mmの緑灰色粘土を挟む。	
357	-	-	-	所々、長石の結晶石化が見られる	106.30	106.50	106.30	106.50	106.30~106.50m: 所々、長石の結晶石化が見られる。	
358	106.33	106.33	60°割れ目ぞい幅5mmが細片化する。粘土は伴わない。	-	-	-	-	106.33m: 60°割れ目ぞい幅5mmが細片化する。粘土は伴わない。		
359	-	-	-	(コアの形状欄)IVランク	106.33	106.70	106.33	106.70	(コアの形状欄)IVランク	
360	107.40	107.83	CM	-	-	-	-	107.40~107.83m: CM		
361	107.52	107.55	各々40°、53°割れ目に囲まれ細岩片化~砂状化する。粘土は伴わない。	-	-	-	-	107.52~107.55m: 各々40°、53°割れ目に囲まれ細岩片化~砂状化する。粘土は伴わない。		
362	107.83	108.24	CL 風化で割れ目ぞいに軟化が進む。	-	-	-	-	107.83~108.24m: CL 風化で割れ目ぞいに軟化が進む。		
363	107.83	108.24	(岩級区分欄)CL	(岩級区分欄)CM	107.83	108.24	107.83	108.24	(岩級区分欄)CMに含める	
364	108.20	108.20	50°割れ目と周辺の割れ目はマンガンを染染受ける。	-	-	-	-	108.20m: 50°割れ目と周辺の割れ目はマンガンを染染受ける。		
365	108.24	109.88	CM 硬質であるがゆる割れ目や密度度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。割れ目には挟雑物は殆んど分布しない。109.00~109.14mと109.41~109.60m間は割れ目が密集し、長さ10~30m/m主軸の硬質岩片化している。	-	-	-	-	108.24~109.88m: CM 硬質であるがゆる割れ目や密度度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。割れ目には挟雑物は殆んど分布しない。109.00~109.14mと109.41~109.60m間は割れ目が密集し、長さ10~30m/m主軸の硬質岩片化している。		

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名：H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度		
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度		
			記事 コア観察カードから正し転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
366	-	-	-	108.64	108.76	アブライト脈を挟む。上端・下端とも50°程度で境界は明瞭、仰着している。	108.64	108.6	108.64~108.6m:アブライト脈を挟む。上端・下端とも50°程度で境界は明瞭で仰着している。	
367	-	-	-	108.64	108.76	(地質名欄)アブライト	108.64	108.6	(地質名欄)アブライト	
368	109.98	110.43	CH 仰着割れ目や密着度の低い割れ目を含まない棒状コアからなる。	-	-	-	109.98	110.3	109.98~110.43m:CH 仰着割れ目や密着度の低い割れ目を含まない棒状コアからなる。	
369	109.98	110.43	(岩級区分欄)CH	109.98	110.43	(岩級区分欄)CM	109.98	110.3	(岩級区分欄)CMに含まれる	
370	110.43	110.74	CL 岩片は硬いが、割れ目の一部で砂状化する。	110.43	112.04	CM 堅硬で割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	110.43	112.04	110.43~112.04m:CM 堅硬で割れ目に挟在物はほとんど分布しない。	
371	-	-	-	110.43	110.74	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)Bランク	110.43	110.4	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)Bランク	
372	-	-	-	110.72	111.54	アブライト脈 上端5°で機軸割れ。下端は45°で湾曲。境界は明瞭で一部仰着している。	110.72	111.4	110.72~111.54m:アブライト脈を挟む。上端15°で機軸割れ。下端45°で湾曲し、境界は明瞭で一部仰着している。	
373	-	-	-	110.72	111.54	(地質名欄)アブライト	110.72	111.4	(地質名欄)アブライト	
374	110.74	112.83	CM 30~60°とこれに直交~斜交する50~70°割れ目が主体 割れ目交差部の一部では岩状化するが劣化は伴わない。 112.04m以浅は堅硬で割れ目挟在物は殆んど分布しない。 111.13~111.37mは暗緑色化、111.37~11.54mはにぶい緑色を割れ目方向と調和的に50~60°で示す。 前者は緑泥石化が進んだ区間、後者はカリ長石が多く露出する区間である。両色調境界部はよく密着し、破砕や変質は伴わない。 112.04mは深は硬さ「C」主体で、一部の割れ目ぞいは風化で薄く砂状化する。粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱染を軽微に受け、割れ目の面ぞいは薄く黒褐色化する。	112.04	112.83	CL 30~40°とこれに直交~斜交する50~70°割れ目が主体 割れ目交差部の一部では岩状化するが劣化は伴わない。 112.04m以浅は堅硬で割れ目挟在物は殆んど分布しない。 111.13~111.37mは暗緑色化、111.37~11.54mはにぶい緑色を割れ目方向と調和的に50~60°で示す。 前者は緑泥石化が進んだ区間、後者はカリ長石が多く露出する区間である。両色調境界部はよく密着し、破砕や変質は伴わない。 112.04mは深は硬さ「C」主体で、一部の割れ目ぞいは風化で薄く砂状化する。粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱染を軽微に受け、割れ目の面ぞいは薄く黒褐色化する。	112.04	112.13	112.04~112.83m:CL 30~60°とこれに直交~斜交する50~70°割れ目が主体。 割れ目交差部の一部では岩状化する。 111.13~111.37mは暗緑色化で暗緑色を呈する。 111.37~111.54mは最大径2cmの石英・カリ長石からなるペグマタイト。 両者の境界部はよく密着し、破砕や変質は伴わない。 112.04m以浅は硬さ「C」主体で、一部の割れ目ぞいは風化で薄く砂状化する。粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱染を軽微に受け、割れ目の面ぞいは薄く黒褐色化する。高角度割れ目が発達している。	
375	112.83	113.51	CL 割れ目ぞいに砂状化が進むことが多い	-	-	-	112.83	113.1	112.83~113.51m:CL 割れ目ぞいに砂状化が進むことが多い。	
376	113.03	113.31	消滅したり、消滅しかかっている割れ目も分布する。	-	-	-	113.03	113.1	113.03~113.31m: 消滅したり、消滅しかかっている割れ目も分布する。	
377	113.10	113.13	コアチューブ引上げ時に乱され、棒状コア化している。	113.10	113.13	コアチューブ引上げ時に乱され、棒状コア化している。 全体に灰白~灰黄色の粘土脈を伴う	113.10	113.13	113.10~113.13m: コアチューブ引上げ時に乱され、棒状コア化している。全体に灰白~灰黄色の粘土脈を伴う。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		No.	記事	報告書柱状図記事	
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度				
									コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
378	113.51	113.60	破砕帯(主せん断面113.59m)	破砕帯(主せん断面113.59m) 最新活動面は113.56mか113.60mの可能性がある					●113.51~113.60m:破砕部 113.51~113.56m:粘土混じり岩片状部(H) 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。径5~10mm硬さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化~砂状化する。灰褐色を呈する。幅20~35mm。 113.56m:粘土状部(H-1) 上端66°で、下端66°でいずれも小さく波打って連続。途中で幅1mmの粘土に分離する。軟質で、径1mm石英粒わずかに含む。灰白色を呈する。幅1~2mm。 113.56~113.60m:粘土混じり岩片状部(H) 上端66°で小さく波打ち、下端63°。幅1mm以下の細かい褐色(7.5YR7/4)の直線的な軟質粘土層として連続。径5~10mmの岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰褐色(7.5YR6/2)厚さ5~20mm。	・現状、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の彰露は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
379	113.51	113.56	H 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。径5~10mm硬さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化~砂状化。「粘土混じり岩片状」を呈する。灰褐色を呈する。幅20~35mm。	H 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。径5~10mm硬さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化~砂状化。「粘土混じり岩片状」を呈する。灰褐色を呈する。幅20~35mm。						
380	113.56	113.56	Hc-1 66°で上下端とも小さく波打って連続。途中で厚さ1m/m粘土に分離。 径1mm石英粒わずかに含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ1~2m/m。	Hc-1 66°で上下端とも小さく波打って連続。途中で厚さ1m/m粘土に分離。 径1mm石英粒わずかに含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ1~2m/m。 直線性に乏しい。	113.51	113.60				
381	113.56	113.60	H 上端66°で小さく波打ち、下端63°。幅1mm以下の細かい褐色(7.5YR7/4)の直線的な軟質粘土層として連続。径5~10mmの岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰褐色(7.5YR6/2)厚さ5~20mm。	H 上端66°で小さく波打ち、下端63°。幅1mm以下の細かい褐色(7.5YR7/4)の直線的な軟質粘土層として連続。径5~10mmの岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰褐色(7.5YR6/2)厚さ5~20mm。やや硬質。細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。 このうち113.59~113.60mは礫質砂状を呈し、やや硬質で、含まれる細粒部の連続性・直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	113.56	113.60				
382	113.51	114.00	(岩級区分欄)D	(岩級区分欄)CL	113.51	114.00	(岩級区分欄)Dに含む			
383	113.60	114.00	D 径2~20mmの垂直線に30%程度含む暗褐色砂状部。下境界は2系統の割れ目に沿っており、一部は割れ目を充填している。やや軟質。	D 径2~20mmの垂直線に30%程度含む暗褐色砂状部。下境界は2系統の割れ目に沿っており、一部は割れ目を充填している。やや軟質。	113.60	113.70	径2~20mmの垂直線に30%程度含む暗褐色砂状部。下境界は2系統の割れ目に沿っており、一部は割れ目を充填している。やや軟質。			
384	-	-	-	傾斜45°程度の2系統の割れ目が分布し、一部は砂礫状を呈する。	113.70	114.00	113.70~114.00m:傾斜45°程度の2系統の割れ目が分布し、一部は砂礫状を呈する。			
385	-	-	-	(コアの硬さ欄)Gランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)Cランク	113.70	113.85	(コアの硬さ欄)Gランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)Cランク			
386	-	-	-	(割れ目状態欄)Cランク	113.85	114.00	(割れ目状態欄)Cランク			
387	114.00	114.75	CL 高角と低角度割れ目が交差し概ね30m/m以下に岩片化。 割れ目の一部は砂状化~マンガン鉱染を受ける	CL 高角度90°と低角度20°の割れ目が交差し概ね30m/m以下に岩片化。 割れ目の一部は砂状化~マンガン鉱染を受ける 一部は掘削時に岩片化したものを含む	114.00	114.5	114.30~114.5m:CL 高角度90°と低角度20°の割れ目が交差し概ね30m以下に岩片化。 割れ目の一部は砂状化~マンガン鉱染を受ける。 一部は掘削時に岩片化したものを含む。			
388	114.75	115.52	D 風化著しく大半が砂状化し、砂礫状を呈する。 一部は掘削時に岩片化したものを含む	D 風化著しく大半が砂状化し、砂礫状を呈する。 一部は掘削時に岩片化したものを含む	114.75	115.2	114.75~115.2m:D 風化著しく大半が砂状化し、砂礫状を呈する。 一部は掘削時に岩片化したものを含む。			
389	115.28	115.28	以深では割れ目の一部が残留している。	-	-	-	115.28m以深では割れ目の一部が残留している。			
390	115.52	118.26	CL 60~70°の高角割れ目と30°前後の低角度割れ目が交差する。 割れ目ごとの多くは砂状化するが粘土は分布しない。	CL 60~70°の高角割れ目と30°前後の低角度割れ目が交差する。 割れ目ごとの多くは砂状化するが粘土は分布しない。 一部は掘削時に岩片化したものを含む	115.52	118.63	115.52~118.63m:CL 60~70°の高角割れ目と30°前後の低角度割れ目が交差する。 割れ目ごとの多くは砂状化する。 一部は掘削時に岩片化したものを含む。			
391	116.87	118.26	割れ目ごとの砂状化が進んでいる。 岩片は径10~30mm硬さD主体。	割れ目ごとの砂状化が進んでいる。 岩片は径10~30mm硬さD主体。 割れ目は60~70°とこれにほぼ直交する40°前後が多く、交差部では径5m/m前後に細粒化するものもある。 所々、幅1~3mm程度の灰白色粘土を伴う。 117.25m、117.62mなど、60~70°割れ目は40°割れ目を止めているを切っている部分がある。止めている部分では、割れ目に細粒部は付かない、もしくは局所的にしか分布せず、割れ目周辺の原岩組織は明確に認められる。	117.00	118.26	117.00~118.26m: 割れ目ごとの砂状化が進んでいる。 岩片は径10~30mm硬さD主体。 割れ目は60~70°とこれにほぼ直交する40°前後が多く、交差部では径5mm前後に細粒化するものもある。 所々、幅1~3mm程度の灰白色粘土を伴う。 117.25m、117.62mなど、60~70°割れ目は40°割れ目を止めている部分がある。止めている割れ目に細粒部は付かない、もしくは局所的にしか分布せず、割れ目周辺の原岩組織は明確に認められる。			





コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点))	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示 (変更していないものは「」で表示))	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? 			追加変更した情報が入り正しく転記されているか? 					
392	116.87	117.00	116.87	117.00	φ10m前後の葉状コア。これは掘削時に割れ目ぞいの砂状部分が流失したためと推定される。割れ目は60~70°とこれにほぼ直交する40°前後が多く、交差部ではφ5m前後に層片化するものもある。60~70°割れ目は40°割れ目を切っている部分がある。	116.87	117.00	φ10m前後の葉状コア。これは掘削時に割れ目ぞいの砂状部分が流失したためと推定される。割れ目は60~70°とこれにほぼ直交する40°前後が多く、交差部ではφ5m前後に層片化するものもある。60~70°割れ目は40°割れ目を切っている部分がある。	116.87~117.00m: 径10m前後の葉状コア。これは掘削時に割れ目ぞいの砂状部分が流失したためと推定される。	
393	-	-	116.87	117.00	(コアの硬さ欄)Cランク	116.87	117.00	(コアの硬さ欄)Cランク		
394	118.10	118.63	118.10	118.63	割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。118.26m以降では上位よりも更に割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。一部で厚1~2mの白色粘土層をはさむ	118.10	118.63	118.10~118.26m: 割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。118.26~118.63m: 上位よりも更に割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。一部で厚1~2mの白色粘土層を網目状にはさむ	118.10~118.63m: 割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。118.26~118.63m: 上位よりも更に割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。厚さ1~2mmの白色粘土層を網目状に挟む。	
395	118.63	118.94	-	-	D砂状化が著しくなり、締った砂礫状を呈するものが主だが硬さC)岩片のみからなる部分も残留	-	-	-	118.63~118.94m: D砂状化が著しくなり、締った砂礫状を呈するものが主だが、硬さC)岩片のみからなる部分も残留。	
396	118.94	119.12	118.94	119.12	破砕帯(主せん断面119.10m)	118.94	119.12	破砕帯(主せん断面119.40m) 最新活動面は119.10m(119.12mの可能性もある)		
397	118.94	119.10	118.94	119.10	H上端32°、下端60°でいずれも直線的に連続。主せん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多くφ9~10m/mに層片化した岩片層の一部に砂状化した砂溜り岩片状を呈する。色調はこぶい黄褐色(10YR5/4)、厚さ160m/m(コア長)。	118.94	119.10	H上端33°、下端60°でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多くφ9~10m/mに層片化した岩片層の一部に砂状化した砂溜り岩片状を呈する。色調はこぶい黄褐色(10YR5/4)、厚さ160m/m(コア長)。 硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。含まれる細粒部は局所的に分布	●118.94~119.12m: 破砕帯 118.94~119.10m: 砂溜り岩片状部(H) 上端60°、下端60°でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多く、径8~10mmに層片化した岩片と岩片層の一部に砂状化する。こぶい黄褐色を呈する。 118.94~119.12m: 細溜り岩片状部(Hc-2) 上端60°で直線的に、下端60°で波打って連続。軟質で、径1~2mm石英粒、径3~10mm粘土化~硬さD)岩片を10~20%含む軟弱な粘土層が分布する。粘土中には、表面がマンガン化した径1mmの石英粒が多い。また下層~上層へ斜交する幅2mmの軟弱な黒色粘土層が分布する。 また、下層~上層へ斜交する幅2mmの軟弱な黒色粘土層が分布する。	●硬軟。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。境界面や細粒部の連続性・直線性は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
398	119.10	119.12	119.10	119.12	Hc-2 60°で上端直線的に、下端は波打って連続。φ1~2m/m石英粒、φ3~10m/m粘土化~硬さD)岩片を10~20%含む軟弱な粘土層(オウツ)色調は淡黄(5Y8/3)、厚さ13~15m/m粘土中には、表面がマンガン化したφ1m/mの石英粒が多い。また下層~上層へ斜交する幅2mmの軟弱な黒色粘土層が分布する。	119.10	119.12	Hc-2 60°で上端直線的に、下端は波打って連続。φ1~2m/m石英粒、φ3~10m/m粘土化~硬さD)岩片を10~20%含む軟弱な粘土層(オウツ)色調は淡黄(5Y8/3)、厚さ13~15m/m粘土中には、表面がマンガン化したφ1m/mの石英粒が多い。また下層~上層へ斜交する幅2mmの軟弱な黒色粘土層が分布する。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。		
399	119.12	119.30	119.12	119.30	CL 60~70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く層片化するが塊状物は殆んど分布しない	119.12	119.30	CL 60~70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く層片化するが塊状物は殆んど分布しない 一部は掘削時に層片化したものを含む	119.12~119.30m: CL 60~70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く層片化するが、塊状物はほとんど分布しない。一部は掘削時に層片化したものを含む。	
400	119.12	119.30	119.12	119.30	(岩粒区分欄)CL	119.12	119.30	(岩粒区分欄)Dに含める		
401	119.30	120.78	119.30	120.78	CM 一部で密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・層片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。	119.30	120.78	CM 一部で密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・層片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 118.30~120.00m間は傾斜30~60°程度の割れ目が1~1cm程度の間隔で分布し、120.00~120.78m間は傾斜10~30°程度の割れ目が1~10cm程度の間隔で分布する	118.30~120.00m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多い。すべり面が層片化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 119.30~120.00m間は傾斜30~60°程度の割れ目が1~10cm程度の間隔で分布する。 120.00~120.78m間は傾斜10~20°程度の割れ目が1~10cm程度の間隔で分布する。	
402	120.78	122.00	120.78	122.00	CH 130~140m間でゆるぎ割れ目が約10m/m間隔で分布。	120.78	122.00	CH 130~140m間でゆるぎ割れ目が約10m/m間隔で分布。	120.78~122.00m: CH	
403	-	-	121.09	121.16	アフライト脈を挟む。上端20°、下端15°で屈曲した明確な境界をもつ。面は付着している。	121.09	121.16	アフライト脈を挟む。上端20°、下端15°で屈曲した明確な境界をもつ。面は付着している。	121.09~121.16m: アフライト脈を挟む。上端20°、下端15°で屈曲した明確な境界をもつ。面は付着している。	
404	122.00	125.06	-	-	CM 一部で密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多い。すべり面が層片化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。	-	-	-	122.00~125.06m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多い。すべり面が層片化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。	
405	-	-	122.36	122.36	傾斜2°、幅5~10mm程度で暗緑色を呈する。	122.36	122.36	傾斜2°、幅5~10mm程度で暗緑色を呈する。	122.36m: 傾斜2°、幅5~10mm程度で暗緑色を呈する。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名：H27-B-1

	コア観察コード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
	記事	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? 			追加変更した情報が正しく転記されているか? 		適正化した記事内容	
406	123.38	123.38	-	-	-	123.38	123.38	123.38m: 割れ目交差部で幅2~3mm縮片状化するが、風化砂状部や粘土化部は挟まない。
407	124.54	124.54	-	-	-	124.54	124.54	124.54m: 55° 割れ目面に厚さ0.5mm、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。
408	125.06	125.28	-	-	-	125.06	125.28	125.06~125.28m: CL 付着割れ目などから分離・縮片化している。砂や粘土は挟まない。
409	125.06	125.28	125.06	125.28	(岩級区分欄)CM	125.06	125.28	(岩級区分欄)MIに含める
410	125.28	127.68	-	-	-	125.28	127.68	125.28~127.68m: CM 開口割れ目と平行方向の付着割れ目や密度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの強打で一部は分離・縮片化する。ごく一部(下記127.16~127.25m間)でごく薄く風化する以外ほぼ新鮮、未風化。
411	127.16	127.25	-	-	-	127.16	127.25	127.16~127.25m: 径10mm前後で角礫化している。下端の45° 割れ目には幅10mmが径2~5mmで縮片状化し、風化で淡褐色化する。
412	127.68	128.08	127.68	128.08	CL 厚さ5~10m/程度の片状コア主体で挟持物は下端部の128.05~128.08mが径3~5m/硬質岩片を含む「硬質砂」状を呈する以外、砂、粘土などは挟まない。 一部は掘削時に縮片化している。	127.68	128.08	127.68~128.08m: CL 厚さ5~10m/程度の片状コア主体で挟持物は下端部の128.05~128.08mが径3~5m/硬質岩片を含む「硬質砂」状を呈する以外、砂、粘土などは挟まない。一部は掘削時に縮片化している。
413	127.68	128.08	127.68	128.08	(岩級区分欄)CM	127.68	128.08	(岩級区分欄)MIに含める
414	128.08	128.64	-	-	-	128.08	128.64	128.08~128.64m: CM 各割れ目は薄く淡褐色し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟持物は認められない。
415	128.64	128.88	-	-	-	128.64	128.88	128.64~128.88m: CL 径10mm前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目には砂が付着することがある。割れ目自体に風化が進行していると推定される。
416	128.64	128.88	128.64	128.88	(岩級区分欄)CM	128.64	128.88	(岩級区分欄)MIに含める
417	128.88	129.91	128.88	129.91	CM 60~70° の高角度と30~40° の低角度割れ目の交差部では径10mm前後に片状~角礫状するが、砂状部や粘土化部は挟まない。	128.88	129.91	128.88~129.91m: CM 60~70° の高角度と30~40° の中角度割れ目の交差部では径10mm前後に片状~角礫状するが、砂状部や粘土化部は挟まない。
418	129.91	131.93	-	-	-	129.91	131.93	129.91~131.93m: CH 一部のコアには付着割れ目や密着割れ目をきむが、ハンマーの強打でも密着し、分離・縮片化しないものが多い。
419	-	-	130.00	140.00	130.00~140.00m: 付着割れ目が約10mm間隔で分布。	130.00	140.00	130.00~140.00m: 付着割れ目が約10mm間隔で分布。
420	131.40	131.52	-	-	-	131.40	131.52	131.40~131.52m: 径20~30mmに角礫状化しているが、これはロッド引上時に生じた人為的な現象と推定される。
421	131.93	138.07	131.93	138.07	CM 付着割れ目や密度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。割れ目の一部は風化で薄く砂状部を挟むことがあるが、挟持物がない(b)割れ目が主体。	131.93	138.07	131.93~138.07m: CM 付着割れ目や密度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものが多い。割れ目の一部は風化で薄く砂状部を挟むことがあるが、挟持物がない(b)割れ目が主体。
422	132.07	132.24	-	-	-	132.07	132.24	132.07~132.24m: 径10~20mm角礫状化する。割れ目面に砂が付着するものが多い。微細な黄鉄鉱も伴う。同区間は建質である。
423	-	-	132.18	132.33	アプライト脈を挟む 上層はコアチューブ引き上げ部で不明、下端は0°で明確な境界をもち、面は付着している。	132.18	132.33	132.18~132.33m: アプライト脈を挟む。上層はコアチューブ引き上げ部で不明、下端は0°で明確な境界をもち、面は付着している。
424	-	-	133.20	133.25	アプライト脈を挟む 上層、下端とも傾斜5°で明確な境界をもち、面は付着している。	133.20	133.25	133.20~133.25m: アプライト脈を挟む。上層、下端とも傾斜5°で明確な境界をもち、面は付着している。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		適正化した記事内容	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
425	133.40	134.00	砂着しと密着割れ目ぞいに開口し、φ10mm前後に細かく砕けている。	-	-	-	133.40~134.00m:砂着しと密着割れ目ぞいに開口し、径10mm前後に細かく砕けている。		
426	133.82	133.82	60° 割れ目ぞい幅20mm/mがφ3~5mmの薄片状化しているが、風化に起因する砂や粘土はほとんどない。	-	-	-	133.82m:60° 割れ目ぞい幅20mmが径3~5mmの薄片状化しているが、風化に起因する砂や粘土はほとんどない。		
427	-	-	-	134.78	134.78	傾斜5°、幅2mm以下の石英脈を挟み、一部に白色の層脈を伴う。	134.78	134.78	134.78m:傾斜5°で幅2mm以下の石英脈を挟み、一部に白色の層脈を伴う。
428	-	-	-	134.87	134.91	傾斜5°、幅20mm程度で緑色化している。	134.87	134.91	134.87~134.91m:傾斜5°、幅20mm程度で緑色化している。
429	-	-	-	135.41	135.41	傾斜20°及び135.45m付近の2本の傾斜55°程度の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。	135.41	135.51	135.41m:傾斜20°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。 135.45m付近:傾斜55°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。
430	135.80	136.00	砂着割れ目ぞいに開口し、長さ10~30mm程度に薄片化している。	-	-	-	135.80~136.00m:砂着割れ目ぞいに開口し、長さ10~30mm程度に薄片化している。		
431	137.00	138.07	砂着割れ目が多いが密度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。すでに開口割れ目化しているものも多い。 φ2~5mm/暗緑灰色の粘泥石が斑点状に点在する。	-	-	-	137.00~138.07m:砂着割れ目が多いが密度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。すでに開口割れ目化しているものも多い。径2~3mm暗緑灰色の粘泥石が斑点状に点在する。		
432	138.07	138.44	砂着後の低い砂着割れ目を多く含む、全体として硬さ「C」である。 長石の白濁化や割れ目挟み物はほとんど認められない。 φ2~5mm/暗緑灰色の粘泥石斑点が多い。	138.07	138.44	CM 密度の低い潜在割れ目を多く含む、全体として硬さ「C」である。 長石の白濁化や割れ目挟み物はほとんど認められない。 φ2~3mm/暗緑灰色の粘泥石斑点が多い。	138.07	138.44	138.07~138.44m:CM 密度の低い潜在割れ目を多く含む、全体として硬さ「C」である。 長石の白濁化や割れ目挟み物はほとんど認められない。 径2~3mm暗緑灰色の粘泥石斑点が多い。
433	138.44	138.80	CH 堅硬、塊状。砂着割れ目が多いが密度高くハンマー強打でも分離しない。	-	-	-	138.44~138.80m:CH 堅硬、塊状。砂着割れ目が多いが、密度高くハンマー強打でも分離しない。		
434	138.44	138.80	(岩級区分欄)CH	138.44	138.80	(岩級区分欄)CM	138.44	138.80	(岩級区分欄)CMに含める
435	138.80	139.82	CL 139.18m以浅は硬さ「C」、以深は軟化が進み「D」である。 全体に割れ目挟み物はほとんど含まない。	-	-	-	138.80~139.82m:CL 139.18m以浅は硬さ「C」、以深は軟化が進み「D」である。 全体に割れ目挟み物はほとんど含まない。		
436	138.93	138.93	60~70° 厚さ5~10mmで湾曲しながら石英脈が密着部一部割れ目化して連続。	-	-	-	138.93m:60~70° 厚さ5~10mmで湾曲しながら石英脈が密着部一部割れ目化して連続。		
437	138.95	139.08	30~40°と70° 割れ目が交差。岩片状を呈する。劣化は伴わない。	-	-	-	138.95~139.08m:30~40°と70° 割れ目が交差し岩片状を呈する。劣化は伴わない。		
438	139.18	139.18	以深は上位より直化と変質が進む。	-	-	-	139.18m:以深は上位より直化と変質が進む。		
439	139.31	139.31	72° 割れ目ぞい厚さ2~3mm/マンガン鉱染を受ける。	-	-	-	139.31m:72° 割れ目ぞい厚さ2~3mm/マンガン鉱染を受ける。		
440	139.82	139.88	(岩級区分欄)D	139.82	139.88	(岩級区分欄)CL	139.82	139.88	(岩級区分欄)CLに含める
441	139.82	139.88	破砕帯(主せん断面139.82m)	139.82	139.88	破砕帯(最新活動面139.32m) 直線約な細粒部	139.82	139.88	
442	139.82	139.82	He-1 52°で直線的に連続。肉眼的には石英粒、岩片を含まない軟弱粘土(分ラジ)。色調は暗緑灰(5G3/1)~灰褐色(7.5Y4/1)。厚さ0.5~1m/m	139.82	139.82	He-1 52°で直線的に連続。肉眼的には石英粒、岩片を含まない軟弱粘土(分ラジ)。色調は暗緑灰(5G3/1)~灰褐色(7.5Y4/1)。厚さ0.5~1m/m	139.82	139.82	●139.82~139.88m:細粒部 139.82m:粘土状部(He-1) 52°で直線的に連続。軟質で、石英粒、岩片を含まない。 139.82~139.88m:砂混じり岩片状部(H) 上端52°、下端52°でいずれも直線的に連続。径3~5mmに細かく岩片化。岩片間は砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。マンガン汚染し、暗緑灰色を呈する。幅40mm。
443	139.82	139.88	H 52°で上下端とも直線的に連続。φ3~5mm/mに細かく薄片化。岩片間は砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。全体に砂混じり岩片状を呈する。色調は暗緑灰色(10G3/1)。厚さ10m/m	139.82	139.88	H 52°で上下端とも直線的に連続。φ3~5mm/mに細かく薄片化。岩片間は砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。全体に砂混じり岩片状を呈する。色調は暗緑灰色(10G3/1)。厚さ10m/m 硬質、マンガン汚染して原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も暗緑化した岩片からなる組織は不明瞭。細粒部に伴わない。	139.82	139.88	
444	139.88	139.95	D 主せん断面と平行に近い割れ目が多い。岩組織は残留する。	139.88	139.95	D 直線的なせん断面と平行に近い割れ目が多い。岩組織は残留する。マンガン汚染著しい。	139.88	139.95	139.88~139.95m:D 直線的なせん断面と平行に近い割れ目が多い。原岩組織は残留する。マンガン汚染著しい。
445	139.95	140.03	CL 硬さ「C」岩片主体。	-	-	-	139.95~140.03m:CL 硬さ「C」岩片主体。		

余白

H27-B-2

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事	記事		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容	
1	-	-	0.00	0.70	試掘でコンクリートが分布することを確認している。コア採取は実施しなかった。	0.00	0.70	0.00~0.70m: 試掘でコンクリートが分布することを確認している。コア採取は実施しなかった。	
2	0.00	0.70	0.00	0.70	(地質名欄)コア欠如	0.00	0.70	(地質名欄)コア欠如	
3	-	-	0.70	12.33	盛土	0.70	12.33	0.70~12.33m: 盛土	
4	-	-	0.70	1.00	クリ石	0.70	1.00	0.70~1.00m: クリ石	
5	0.70	1.00	0.70	1.00	(地質名欄)盛土 (色調欄)N21 黒	0.70	1.00	(地質名欄)盛土 (色調欄)黒	
6	1.00	2.00	1.00	2.00	径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い	1.00	2.00	1.00~4.10m: 径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体。淘汰は概ね良好である。ルーズで、径10~50mmの花崗岩類、黒色砂岩の角礫を含む。	盛土区間のうち、同様な地質区間をまとめて書きた
7	2.00	3.40	2.00	3.40	径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は普通 10~50mmの礫を複数含む	2.00	3.40	径0.25~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は普通。ルーズ。 径10~50mmの花崗岩類、黒色砂岩の角礫を多く含む	
8	3.40	4.00	3.40	4.10	径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い	3.40	4.10	径0.25~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い。ルーズ	
9	-	-	4.10	5.83	スライム	4.10	5.83	4.10~5.83m: スライム 緑泥じりシルト質粗粒砂。灰黄褐色を呈する砂泥じり腐植質シルト。砂泥じりシルト。黒褐色を呈する腐植質シルトからなる。所々、径7cm以下の花崗岩類、黒色砂岩の角礫を含む。全体にルーズである。	・スライム区間の地質名を別記してまとめて書きた
10	-	-	4.10	4.28	径2~10mmの花崗岩類、石英、長石、黒色砂岩の角礫。植物片を含む。シルト質粗粒砂からなる。ルーズ。	4.10	5.83		
11	4.10	5.83	4.10	5.83	(地質名欄)盛土	4.10	5.83	(地質名欄)コア欠如	
12	-	-	4.28	4.42	砂泥じり腐植質シルトからなる。軟質。灰黄褐色(10YR5/2)を呈する。	-	-		・上記でスライム区間の記載をまとめて書きたため記載しない
13	-	-	4.42	5.80	砂泥じりシルトからなる。軟質	-	-		・上記でスライム区間の記載をまとめて書きたため記載しない
14	-	-	4.84	4.84	径7cmの花崗斑岩の角礫あり。	-	-		・上記でスライム区間の記載をまとめて書きたため記載しない
15	-	-	4.98	4.98	径5cmの花崗斑岩の角礫あり。	-	-		・上記でスライム区間の記載をまとめて書きたため記載しない
16	-	-	5.80	5.83	腐植質シルトからなる。黒褐色(2.5Y3/1)を呈する。軟質。	-	-		・上記でスライム区間の記載をまとめて書きたため記載しない
17	-	-	5.83	7.00	砂泥じりシルト質粗粒砂主体で、6.80~7.00mは礫質粗粒砂砂からなる。	5.83	7.00	5.83~7.00m: 砂泥じりシルト質粗粒砂主体で、6.80~7.00mは礫質粗粒砂砂からなる。	
18	5.83	6.25	5.83	6.25	(色調欄)10YR6/4 にふい黄橙	5.83	6.25	(色調欄)にふい黄	
19	6.25	6.64	6.25	6.64	(色調欄)10YR6/4 にふい黄橙	6.25	6.64	(色調欄)灰	
20	-	-	7.00	7.12	合板	7.00	7.12	7.00~7.12m: 合板が分布する。	
21	7.00	7.41	7.00	7.41	(色調欄)7.5YR5/4にふい褐	7.00	7.41	(色調欄)にふい黄橙	
22	-	-	7.12	7.17	径8cmの花崗斑岩の角礫	7.12	7.17	7.12~7.17m: 径8cmの花崗斑岩の角礫を含む。	
23	-	-	7.17	7.41	スライム 砂泥じりシルトからなる。軟質。	7.17	7.41	7.17~7.41m: スライム 砂泥じりシルトからなる。軟質。	
24	7.17	12.33	7.17	12.33	(地質名欄)盛土	7.17	12.33	(地質名欄)コア欠如	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事	記事	記事	記事		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容		
25	-	-	7.41	8.53	スライム 径10cm以下の花崗岩類の垂角～角礫からなる。コアの形状をなしていない。基質部は流出している。	7.41	8.53	7.41～8.53m:スライム 径10cm以下の花崗岩類の垂角～角礫からなる。コアの形状をなしていない。基質部は流出している。		
26	-	-	8.11	8.20	スライム シルト質礫からなる。ルーズ	8.11	8.20	8.11～8.20m:スライム ルーズなシルト質礫からなる。		
27	8.50	8.53	(色調欄)7.5YR6/1灰褐	8.50	8.53	(色調欄)7.5YR6/4にぶい褐	8.50	8.53	(色調欄)にぶい褐	
28	-	-	-	8.53	9.22	スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質	8.53	9.70	8.53～9.70m:スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質。下部は植物片が混じる。	・スライム区間のうち、同様な地質の区間をまとめて書きした
29	9.00	9.22	(色調欄)7.5YR4/1褐灰	9.00	9.22	(色調欄)7.5YR6/1灰褐	9.00	9.22	(色調欄)灰褐	
30	-	-	-	9.22	9.70	スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質。植物片混じる。	-	-	-	・上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
31	-	-	-	9.70	9.80	スライム 径8cmの花崗斑岩の礫。	9.70	9.80	9.70～9.80m:スライム 径8cmの花崗斑岩の礫からなる。	
32	9.70	10.26	(色調欄)7.5YR4/1褐灰	9.70	10.26	(色調欄)7.5YR6/1褐灰	9.70	10.26	(色調欄)褐灰	
33	-	-	-	9.80	10.26	スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質。植物片混じる。礫は径3cm以下の花崗岩類の角礫からなる。	9.80	10.42	9.80～10.42m:スライム 砂・礫混じりシルト～礫混じり砂からなる。軟質。植物片混じる。礫は径3cm以下の花崗岩類の角礫からなる。	・スライム区間のうち、同様な地質の区間をまとめて書きした
34	-	-	-	10.26	10.42	スライム 礫混じり砂からなる。	-	-	-	・上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
35	10.26	10.42	(色調欄)7.5YR4/1褐灰	10.26	10.42	(色調欄)10YR7/1灰白	10.26	10.42	(色調欄)灰白	
36	-	-	-	10.42	10.70	スライム 砂・礫混じりシルト～粘土からなる。軟質。泥剤がコア表面に付着している。	10.42	10.70	10.42～10.70m:スライム 砂・礫混じりシルト～粘土からなる。軟質。泥剤がコア表面に付着している。	
37	10.42	10.50	(色調欄)7.5YR4/1褐灰	10.42	10.50	(色調欄)10YR7/6明黄褐	10.42	10.50	(色調欄)明黄褐	
38	-	-	-	10.70	11.00	スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質	10.70	11.00	10.70～11.00m:スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質。	
39	10.70	11.00	(色調欄)10YR7/6明黄褐	10.70	11.00	(色調欄)10YR6/1褐灰	10.70	11.00	(色調欄)褐灰	
40	-	-	-	11.00	11.30	スライム 径8cm以下の花崗岩類の礫。基質部は流出している。	11.00	11.30	11.00～11.30m:スライム 径8cm以下の花崗岩類の礫。基質部は流出している。	
41	11.00	11.30	(色調欄)10YR6/6明黄褐	11.00	11.30	(色調欄)7.5YR7/3にぶい橙	11.00	11.30	(色調欄)にぶい橙	
42	-	-	-	11.30	11.58	スライム 腐植混じりシルト質砂からなる。ルーズ	11.30	11.58	11.30～11.58m:スライム 腐植混じりシルト質砂からなる。ルーズである。	
43	11.30	11.50	(色調欄)10YR6/6明黄褐	11.30	11.50	(色調欄)7.5YR6/1 褐灰	11.30	11.50	(色調欄)褐灰	
44	11.50	11.58	(色調欄)10YR6/6明黄褐	11.50	11.58	(色調欄)7.5YR6/1 褐灰	11.50	11.58	(色調欄)褐灰	
45	-	-	-	11.58	12.00	スライム 礫混じり粗粒砂からなる。ルーズで、径2cm以下の花崗岩類の角礫を含む。	11.58	12.00	11.58～12.00m:スライム 礫混じり粗粒砂からなる。ルーズで、径2cm以下の花崗岩類の角礫を含む。	
46	11.58	12.00	(色調欄)10YR6/6明黄褐	11.58	12.00	(色調欄)7.5YR6/4にぶい褐	11.58	12.00	(色調欄)にぶい褐	
47	-	-	-	12.00	12.33	スライム 径8cm以下の花崗岩類の礫からなる。基質部は流出している。	12.00	12.33	12.00～12.33m:スライム 径8cm以下の花崗岩類の礫からなる。基質部は流出している。	

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
48	12.33	12.75	12.33	12.79	12.33	12.79	12.33	12.79	12.33~12.79m:砂礫 礫率70~80%でクサリ礫を多く含む。やや硬質。礫種は花崗斑岩と 部ア プライトで、礫径は2~100mm、最大径200mmの礫が認められる。垂角礫が 主体。 12.68~12.79m付近にマンガン濃集部が認められる。	-
49	12.75	12.79	12.75	12.79	12.75	12.79	12.75	12.79	(地質名欄)砂礫 (地質名欄)砂礫	-
50	12.75	13.00	12.75	13.00	12.75	13.00	12.75	13.00	12.79~13.00m:スライム 礫径粗粒砂からなり、礫率5~10%でクサリ礫を 含む。礫種は花崗斑岩 で礫径は2~10mm、垂角礫が主体。ルーズ	-
51	-	-	13.00	13.18	13.00	13.18	13.00	13.18	13.00~13.18m:スライム 径4cm以下の花崗岩類の角礫からなる。	-
52	12.79	13.53	12.79	13.53	12.79	13.53	12.79	13.53	(地質名欄)コア欠如 (地質名欄)コア欠如	-
53	13.00	13.18	13.00	13.18	13.00	13.18	13.00	13.18	(色調欄)黄褐 (色調欄)黄褐	-
54	-	-	13.18	13.53	13.18	13.53	13.18	13.53	13.18~13.53m:スライム 砂・礫混じりシルト。軟質 13.32~13.45m間にはいぶい橙色の径2cm以下の角礫 を20%程度含む灰黄褐色シルトからなる。	-
55	13.53	13.53	-	-	-	-	-	-	-	*下記に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載はしない
56	-	-	13.53	160.00	13.53	160.00	13.53	160.00	13.53~160.00m:花崗斑岩	-
57	13.53	29.80	13.53	30.10	13.53	30.10	13.53	30.10	13.53~30.10m:CL 硬さ「D」主体で、0~30°の割れ目が多い。全体に風化し、一部の割れ目沿いには砂状化が進む。	-
58	13.53	14.89	13.53	14.89	13.53	14.89	13.53	14.89	(変質欄)3ランク (変質欄)2ランク	-
59	14.91	14.91	13.91	13.91	13.91	13.91	13.91	13.91	幅4mmで傾斜15°の石英脈が認められる。 幅4mmで傾斜15°の石英脈が認められる。	-
60	14.66	14.68	-	-	-	-	14.65	14.68	14.65~14.68m:割れ目沿いにマンガン濃集部が認められる。一部(14.65~ 14.63m)で土砂化が生じている。	-
61	14.89	15.00	14.89	15.09	14.89	15.09	14.89	15.09	14.89~15.00m:スライム 14.89~15.00m間は砂混じりシルトからなる。15.00~15.09m間は砂混じり礫 からなる。	-
62	15.00	15.09	-	-	-	-	-	-	-	-
63	14.89	15.09	14.89	15.09	14.89	15.09	14.89	15.09	(地質名欄)コア欠如 (地質名欄)コア欠如	-
64	15.09	28.02	15.09	28.02	15.09	28.02	15.09	28.02	(変質欄)3ランク (変質欄)2ランク	-
65	15.62	15.66	-	-	-	-	15.62	15.80	15.62~15.80m:所々、割れ目に沿ったマンガン濃集部が見られる。	*マンガン濃集部が見られる区間をまとめて書きした
66	15.80	16.00	-	-	-	-	-	-	-	*上記でマンガン濃集部の記載をまとめて書きしたため記載しない
67	10.50	10.51	16.50	16.51	16.50	16.51	16.50	16.51	25°の割れ目に沿って緑泥石が分布する。 25°の割れ目に沿って緑泥石が分布する。	-
68	16.76	16.86	-	-	-	-	-	-	-	*上記でマンガン濃集部の記載をまとめて書きしたため記載しない
69	16.92	16.93	16.92	16.93	-	-	-	-	-	*上記でマンガン濃集部の記載をまとめて書きしたため記載しない
70	17.10	17.10	-	-	-	-	-	-	-	*上記でマンガン濃集部の記載をまとめて書きしたため記載しない



## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名：H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを通正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
71	17.16	-	17.16m以深は上位に比べ割れ目やや少なくなる	17.16	-	17.16m以深は上位に比べ割れ目やや少なくなる	17.10	-	17.16m以深は上位に比べ割れ目がやや少なくなる。
72	17.57	17.64	割れ目に沿って緑泥石が発達	17.57	17.64	35~40°の割れ目に沿って緑泥石が分布する。	17.57	17.64	17.57~17.84m:35~40°の割れ目に沿って緑泥石が分布する。
73	17.70	17.80	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	-	-	-	-	-	-
74	17.90	17.94	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	-	-	-	-	-	-
75	-	-	-	18.20	18.35	20°の割れ目に沿って黄褐色酸化が見られる	18.20	18.35	18.20~18.35m:20°の割れ目に沿って黄褐色酸化が見られる。
76	-	-	-	18.68	18.74	60°の割れ目2条分布し、面にマンガン濃集が見られる	-	-	-
77	-	-	-	18.59	18.59	10°の割れ目に幅1cm程度の褐色の砂状部を挟む	18.59	18.59	18.59m:10°の割れ目に幅1cm程度の褐色の砂状部を挟む。
78	19.69	19.80	10m/m程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。	19.59	19.80	10mm程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。	19.59	19.80	19.59~19.80m:10mm程度の間隔で割れ目が分布し、マンガンと石英を伴う。
79	-	19.70	19.70m以浅は風化が進み軟質化する	-	-	-	-	19.70	19.70m以浅は風化が進み軟質化する。
80	-	-	-	20.25	20.25	30°の割れ目に幅1~5mmの黄灰色砂状部を挟む	20.25	20.25	20.25m:30°の割れ目に幅1~5mmの黄灰色砂状部を挟む。
81	20.90	20.90	0°割れ目ぞい約10m/m砂状化	20.90	20.90	5°の割れ目沿いに幅約10mm砂状化	20.90	20.90	20.90m:5°の割れ目沿いに幅約10mm砂状化を呈する。
82	21.60	21.79	(コアの形状欄)Vランク	21.60	21.79	(コアの形状欄)Vランク	21.60	21.79	(コアの形状欄)Vランク
83	-	-	-	21.67	21.67	0°の割れ目に幅1mmの暗灰色粘土を挟む。上端側の幅10mmは淡黄褐色を呈する。	21.67	21.67	21.67m:0°の割れ目に幅1mmの暗灰色粘土を挟む。上端側の幅10mmは淡黄褐色を呈する。
84	21.90	21.90	φ10m/m石英が80°割れ目(a)で切られる(石ズレ10m/m)。	21.90	21.90	φ10mm石英が80°割れ目で横断される。80°割れ目は単ではなく、分岐しており、分岐したそれぞれの割れ目は不連続である。(a)で切られる(石ズレ40mm)→高角度割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目も存在しない。	21.90	21.90	21.90m:径10mmの石英原晶が80°の割れ目で横断される。80°の割れ目は単ではなく、分岐しており、分岐したそれぞれの割れ目は不連続である。高角度割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目も存在しない。
85	21.79	26.82	硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も含み両者が交互に出現する。割れ目ぞいに風化で砂状化する部分が多い。	21.79	26.82	硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も含み両者が交互に出現する。割れ目沿いに風化で砂状化する部分が多い。	21.79	26.82	21.79~26.82m:硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も含み両者が交互に出現する。割れ目沿いに風化で砂状化する部分が多い。
86	21.70	23.41	(風化欄)Aランク	21.79	23.41	(風化欄)Bランク	21.79	23.41	(風化欄)Bランク
87	22.10	22.50	(コアの硬さ欄)Cランク	22.10	22.50	(コアの硬さ欄)Bランク	22.10	22.50	(コアの硬さ欄)Bランク
88	22.18	22.49	硬さ「B」で硬質	22.10	22.50	硬さ「B」で硬質	22.10	22.50	22.10~22.50m:硬さ「B」で硬質。
89	22.15	22.50	(コアの形状欄)IVランク	22.15	22.50	(コアの形状欄)IVランク	22.15	22.50	(コアの形状欄)IVランク
90	22.50	23.00	(コアの形状欄)IVランク	22.50	23.00	(コアの形状欄)IVランク	22.50	23.00	(コアの形状欄)IVランク
91	22.62	23.41	(コアの硬さ欄)Cランク	22.62	23.41	(コアの硬さ欄)Dランク	22.62	23.41	(コアの硬さ欄)Dランク
92	-	-	-	23.22	23.22	10°の割れ目に幅5mmで黄灰色のやや硬質な砂を挟む。	23.22	23.22	23.22m:10°の割れ目に幅5mmで黄灰色のやや硬質な砂を挟む。
93	23.52	23.82	23.52m~30°と23.82m~20°の各割れ目に厚さ1m/m半圓結状の灰褐色粘土層は含む	23.52	23.82	23.52m~30°と23.82m~20°の各割れ目に幅1mmのやや硬質な灰褐色粘土層を含む	23.52	23.82	23.52m~30°と23.82m~20°の各割れ目に幅1mmのやや硬質な灰褐色粘土層を含む。
94	-	-	-	23.89	23.89	25°の割れ目に幅5mmの黒灰色シルト質砂を挟む。	23.89	23.89	23.89m:25°の割れ目に幅5mmの黒灰色シルト質砂を挟む。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2		コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
95	25.31	25.31	20° 割れ目ぞいにφ0.5m/m~1m/mと微細な裏母(セリサイト?)が晶出している。	25.41	25.41	20° 割れ目ぞいにφ0.5~1mmと微細な裏母(セリサイト?)が晶出している。	25.41	25.41	25.41m: 20° 割れ目ぞいにφ0.5~1mmと微細な裏母(セリサイト?)が晶出している。
96	25.72	25.98	(コアの形状欄)Vランク	25.72	25.98	(コアの形状欄)Vランク	25.72	25.98	(コアの形状欄)Vランク
97	25.84	25.84	74° の割れ目(s)は交差する5~10° 割れ目を切っている(右ズレ、変位量1~3m/m)。	25.84	25.84	74° の割れ目(s)は交差する5~10° 割れ目を止めている場合と横断する場合がある。割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。高角度割れ目と系統的な割れ目も存在しない。25.80mの高角度割れ目と交差する低角度割れ目には、ずれば認められない。	25.84	25.84	25.84m: 74° の割れ目は交差する5~10° の割れ目を止めている場合と横断する場合がある。割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。高角度割れ目と系統的な割れ目も存在しない。25.80mの高角度割れ目と交差する低角度割れ目には、ずれば認められない。
98	26.82	-	26.82m以深は硬さ「D」が主体となる。	26.82	-	26.82m以深は硬さ「D」が主体となる。	26.82	-	26.82m以深は硬さ「D」が主体となる。
99	-	-	-	27.04	27.90	割れ目面にマンガンが付着する。	27.04	27.90	27.04~27.90m: 割れ目面にマンガンが付着する。
100	27.15	27.15	65° 割れ目に幅2~3m/m軟質淡黄~灰白色粘土脈はさむ。	27.15	27.15	65° 割れ目に幅2~3mmの軟質淡黄~灰白色粘土を挟む。	-	-	-
101	27.91	27.91	20° 幅1m/m石英脈が交差する85° せん断割れ目(s)で右ズレ1mmで引きつられるように変形している(切られてはいない)	27.91	27.91	20° 幅1mm石英脈が交差する85° せん断割れ目(s)で右ズレを横断する。また、27.88mの低角度の潜在割れ目は85° 割れ目を横断する。右ズレ1mmで引きつられるように変形している(切られてはいない)割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	27.91	27.91	27.91m: 20° で幅1mmの石英脈が交差する85° の割れ目を横断する。また、27.88mの低角度の潜在割れ目も85° の割れ目を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
102	28.02	-	28.02m以深、10m/m間隔の風化割れ目が発達し、片状~塊状化している。割れ目ぞいに風化砂状化することが多い。	28.02	-	28.02m以深、10mm間隔の風化割れ目が発達し、片状~塊状化している。割れ目ぞいに風化砂状化することが多い。	28.02	-	28.02m以深、10mm間隔の風化した割れ目が発達し、片状~塊状化している。割れ目ぞいに風化して砂状化することが多い。
103	-	-	-	28.24	28.94	割れ目に沿った風化・変質が見られる	28.24	28.94	28.24~28.94m: 割れ目に沿った風化・変質が見られる。
104	-	-	-	28.55	28.55	25° の割れ目に幅10mmの硬質な黄灰色シルト質砂を挟在する。	28.55	28.55	28.55m: 25° の割れ目に幅10mmの硬質な黄灰色シルト質砂を挟在する。
105	-	-	-	29.19	29.19	60° の割れ目に幅3mmの灰白色粘土を挟在する。	29.19	29.19	29.19m: 60° の割れ目に幅3mmの灰白色粘土を挟在する。
106	29.88	30.82	D 概ねφ10m/m以下に砕けている。風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大している。φ5~30m/mの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、締った「砂塊状」を呈する。基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土化部も散在している。岩組織や上部の割れ目は残留している。	30.10	30.82	D 概ねφ10mm以下に砕けている。風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大している。φ5~30mmの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、硬質な「砂塊状」を呈する。基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土化部も散在している。原岩組織や上部の割れ目は残留している。	30.10	30.82	30.10~30.82m: D 概ねφ10mm以下に砕けている。風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大している。φ5~30mmの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、硬質な砂塊状を呈する。基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土化部も散在している。原岩組織や上部の割れ目は残留している。
107	29.88	30.10	(コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)D	29.88	30.10	(コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL	29.88	30.10	(コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL
108	29.88	30.82	(風化欄)εランク	29.88	30.82	(風化)δランク	29.88	30.82	(風化)δランク
109	30.82	31.15	CL 割れ目ぞいに砂状化することが多い。	30.82	31.15	CL 割れ目ぞいに砂状化することが多い。	30.82	31.15	30.82~31.15m: CL 割れ目ぞいに砂状化することが多い。
110	30.82	31.15	(岩級区分欄)CL	30.82	31.15	(岩級区分欄)D	30.82	31.15	(岩級区分欄)Dに含める